

令和 4 年度

社会福祉法人 若楠

事業報告書

目 次

本部	p 3～ 7
----	--------

- I 法人の運営概要
- II 理事会・評議員会及び監事の監査状況
- III 職員研修・福利厚生事業
- IV 入札を伴う契約及び随意契約
- V その他法人主催行事

若楠療育園	p 8～23
-------	--------

- I 運営概要
- II 利用者の状況
- III 事業の実施状況
- IV 地域社会との交流
- V 総務

若楠児童発達支援センター	p 24～27
--------------	---------

- I 運営概要
- II 利用者の状況
- III 事業の実施状況

若木園	p 28～38
-----	---------

- I 運営概要
- II 利用者の状況
- III 事業の実施状況
- IV 保健衛生
- V 食事班
- VI 地域支援
- VII 地域社会との交流
- VIII 総務

青葉園	p 39～47
-----	---------

- I 運営概要
- II 利用者の状況
- III 事業の実施状況
- IV 生産型活動における生産品等、販売実績
- V 医務
- VI リハビリテーション
- VII 栄養課
- VIII 青葉ホーム
- IX 地域との交流
- X 総務課

どんぐり村	p 48～52
-------	---------

- I 運営概要
- II 利用者の状況
- III 事業の実施状況
- VI 地域社会との交流
- V 総務

グリーンファーム山浦	p 53～64
------------	---------

- I 運営の概要
- II 利用者の状況
- III 就労支援事業の実施状況
- IV 地域社会との交流
- V 総務

もしもしネット	p 65～68
---------	---------

- I 障害者就業・生活支援センター事業の実施
- II 研修等の受講
- III その他
- IV 総括

本 部

I 法人の運営概要

令和4年度は、各施設で新型コロナウイルスによるクラスターが発生し、約1ヶ月にわたり利用者の生活や業務に大きな影響をうけた。この間、職員は献身的に看護、介護にあたり、間接処遇にあたる職員は、後方で細部にわたり業務をおこなった。また、法人内施設からは職員や物資の応援がおこなわれ、一致団結して難局に向き合い乗り越えることができた。利用者は、感染すると重症化するリスクが高いために、今後も感染症対策は継続して取り組んでいく必要がある。

事業としては、法人理念のもと、利用者・保護者・職員の満足度を高める運営の在り方を実践し、社会福祉法人に求められる公益性にも柔軟に対応した。特に、令和5年度より、職員の労働福祉の向上および仕事と生活の調和を図るための、「三大疾病療養等休暇」や年間休日数を増やすために規程の作成をおこなった。仕事の要は人材であることから、ホームページや求人案内のリニューアル、また、若楠事業所説明会、各種の事業所説明会で若楠の事業について説明をおこない人材確保に取り組んだ。並びに働きやすい職場づくりの推奨及びメンタルヘルス室の活用促進、ハラスメントについての勉強会をおこない、離職防止・健康増進に取り組んだ。

法人全体として、福祉を取り巻く環境が変化する中で、「法人若楠の基本理念」からぶれることなく、地域に貢献する笑顔あふれる若楠として、健全な運営・サービスの向上を行うことができた。

II 理事会・評議員会及び監事の監査状況

1 理事会の開催

第1回 理事会

日時 令和4年6月8日（水） 午後3時00分より

場所 若楠療育園 プレイホール

理事出席者 8/8名 監事出席者 2/2名

議題 第一号議案 令和3年度事業報告及び決算

第二号議案 運営規程の改正

第三号議案 施設設備等整備事業

第四号議案 定時評議員会の日程

報告事項 ・令和3年度立入検査の結果について「若楠療育園」
・理事長及び業務執行理事の職務の執行状況報告

第2回 理事会

日時 令和4年12月2日（金） 午後3時00分より

場所 若楠療育園 プレイホール

理事出席者 8/8名 監事出席者 2/2名

議題 第一号議案 令和4年度予算執行状況

第二号議案 令和4年度補正予算案

第三号議案 諸規程・規則の制定・改正

第四号議案 土地賃貸借契約について

第五号議案 施設設備等整備事業

- 報 告 事 項 ・ 園内空調設備の更新について「若楠療育園」
・ 令和 4 年度立入検査の結果について「若楠療育園」

第 3 回 理事会

日時 令和 5 年 3 月 6 日（月） 午後 3 時 00 分より

場所 若楠療育園 プレイホール

理事出席者 8/8 名 監事出席者 2/2 名

- 議題 第一号議案 令和 4 年度予算執行状況
第二号議案 令和 4 年度補正予算案
第三号議案 令和 5 年度事業計画案
第四号議案 令和 5 年度予算案
第五号議案 諸規程・規則の改正
第六号議案 施設設備等整備事業
第七号議案 若木園 放課後等デイサービスの廃止について
報 告 事 項 ・ 施設基準等に係る適時調査の改善報告書「若楠療育園」
・ 令和 4 年度指定障害福祉サービス事業者等実地指導結果通知書
及び改善報告書「若楠療育園」「若楠児童発達支援センター」
「青葉ホーム弥生が丘Ⅰ」
・ 理事長及び業務執行理事の職務の執行状況の報告

第 4 回 理事会

日時 令和 5 年 3 月 18 日（土）

書面決議

議題 第一号議案 評議員選任・解任委員会への評議員候補者 1 名の推薦

2 評議員会の開催

定時評議員会

日時 令和 4 年 6 月 22 日（水） 午後 3 時 00 分より

場所 若楠療育園 プレイホール

評議員出席者 8/9 名 理事出席者 7/8 名 監事出席者 2/2 名

- 議題 第一号議案 令和 3 年度事業報告及び決算
報 告 事 項 ・ 令和 3 年度立入検査の結果について「若楠療育園」

3 監事の監査

第 1 回監査（令和 4 年 5 月 27 日）

令和 3 年度決算内容及び各施設の諸帳簿、財務諸表等の監査（令和 3 年度決算最終監査）
法人全体の令和 3 年度における預金通帳、諸帳簿、入園者の処遇及び預り金等の監査

Ⅲ 職員研修・福利厚生事業

1 職員研修

新採用職員研修

日 時 令和4年4月1日（金） 午前10時25分から午後5時15分まで
令和4年4月4日（月） 午前8時30分から午後5時15分まで
場 所 若楠療育園 プレイホール・どんぐり村・グリーンファーム山浦
内 容 法人理念、職員の心得、福祉制度、メンタルヘルスケア
どんぐり村実地見学、グリーンファーム山浦実地見学、グループワーク等

1年経過者職員研修

日 時 令和4年4月22日（金） 午前8時30分から午後5時00分まで
令和4年5月20日（金） 午前9時00分から午後5時00分まで
場 所 グリーンファーム山浦・どんぐり村
内 容 業務体験、意見交換

スキルアップ研修

日 時 令和4年6月17日（金） 午後1時15分から午後5時15分まで
場 所 若楠療育園 プレイホール
内 容 会長講話、若楠児童発達支援センター長講話、グループワーク

働き方研修

日 時 令和4年10月6日（木） 午前9時30分から午前11時30分まで
午後1時30分から午後3時30分まで
場 所 若楠療育園 プレイホール
内 容 講義「神奈川県立津久井やまゆり園」の事件を振り返って

職員研修会及び基調講演

日 時 令和4年10月28日（金） 午後1時15分から午後5時05分まで
場 所 若楠療育園 プレイホール
内 容 会長講話、各施設の創意工夫の取組発表、檜崎タキコ監事基調講演

2 運営

若楠事業所説明会

日 時 令和4年10月30日（日） 午前10時30分から午前11時55分まで
場 所 若楠療育園 プレイホール
内 容 施設紹介、福利厚生等、法人内散策

令和5年度事業計画説明会

日 時 令和5年3月24日（金） 午後1時30分から午後4時45分まで
場 所 若楠療育園 プレイホール
内 容 法人若楠の運営方針・各施設の令和5年度事業計画発表

3 福利厚生

職員健康診断

期 日 令和4年9月12日(月)～16日(金)、9月20日(火)

検査項目 35歳以上 生活習慣病健診 35歳未満 定期健診

対象者 505名(受診者325名・他病院180名)

夜勤者健康診断

期 日 令和5年3月13日(月)、3月15日(水)、3月17日(金)

検査項目 一般健診

対象者 夜勤者153名

(若楠療育園41名・若木園31名・青葉園76名・グリーンファーム山浦5名)

コーワパークホテル湯布院倶楽部利用券発行 利用促進の案内(随時)及び利用券の配布

4 メンタルヘルス室

人材定着のためのフォローの一環として、周知と利用促進を重点的に行った。

(1) 相談業務

＜月別職員メンタルヘルス相談数＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数	9	35	35	24	31	19	36	48	16	9	6	14	282

※月平均利用者数 23.6人

※新規採用者面談 1回目：40名 2回目：27名

※高ストレス者面談 1名

＜メンタルヘルス相談延べ人数推移＞

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
利用者数	79	38	92	77	254	406	338	282

※各施設担当者と打合せのうえ実施。利用は順調であったが、新型コロナウイルス感染症対策のための交流禁止や希望者のみの相談にした施設もあり、利用者数は減少した。

(2) 啓蒙活動

- ・結果報告書の見方の案内文書添付(ストレスチェック時)
- ・「こころの便り」の発行(毎月)

(3) 研修会

＜法人全体＞

- ・メンタルヘルス講習会 新人研修「オリエンテーション」
- ・メンタルヘルス講習会 新採後6ヶ月研修「働き方研修」

＜各施設＞

- ・若楠療育園 全体研修(ビデオ視聴)「やさしい心を持ち続けるためには」
- ・青葉園 衛生委員会研修「機嫌よく働くためにできること」

- ・どんぐり村 全体研修「職場のハラスメント対策」
- ・もしもしネット 全体研修「機嫌よく働くためにできること」

5 寄付

ご 芳 名	
篠原 英治 様	(株) 篠原工務店 様
古賀 文子 様	林保冷工業 (株) 様

IV 入札を伴う契約及び随意契約

入札を伴う契約・・・該当なし 随意契約・・・・・・・該当あり

V その他法人主催行事

令和4年4月1日（金） 新年度会（入社式）

令和4年5月2日（月） 第45回創立記念式典（永年勤続者表彰、理事長賞表彰、法人賞表彰）

令和5年1月4日（水） 新年挨拶の会 中止

若楠療育園

I 運営概要

1 運営方針（実施結果）

若楠療育園は社会福祉法人若楠の基本理念のもと、各事業における支援の質の向上を図りながら、コロナ禍での感染予防対策を徹底した上で、できる限り入園・在宅利用者のニーズに応えるよう努めた。

（1）感染予防対策の強化

新型コロナウイルス感染予防のための対策をすべての部署で徹底し、入所支援部では2度のクラスターが発生した。

（2）各個別支援計画のもと、快適で安全なサービスを実施

適正な人員配置を保ちながら、利用者一人ひとりの状況に応じた良質かつ安心していただけるサービスの提供を行った。

（3）短期入所事業の受入れ

短期入所事業では、今年度も医療的ケア児等在宅支援事業を受託し、新型コロナウイルスの状況を見極めながら受け入れを行い、受入れ数は前年より増加した。

（4）外来診療数

新型コロナウイルスの影響を受けて受診者総数は前年度よりさらに減少し、コロナ禍前と比較すると大幅な減少となった。

II 利用者の状況

1 年齢

（1）療養介護・医療型障害児入所（入所）

年齢	20歳未満	20～39歳	40～59歳	60歳～	合計
男	3	12	8	15	38
女	2	9	15	16	42

※措置児(20歳未満)5名含む

（2）生活介護（通所）

年齢	20歳未満	20～39歳	40～59歳	60歳～	合計
男	0	13	3	0	16
女	0	7	5	0	12

(3) 児童発達支援（重心）

年齢	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	合計
男	0	0	1	0	0	0	1
女	0	0	0	1	1	0	2

(4) 放課後等デイサービス（重心）

年齢	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳	12 歳	13 歳	合計
男	1	0	1	2	0	0	3	7
女	0	0	0	1	0	2	0	3

Ⅲ 事業の実施状況

1 医療部

(1) 医療課（外来）

①外来受診者総数（表1）

令和4年度受診者総数は前年度16,319人から14,507人と1,812人減少した。新型コロナウイルスの影響は続いており、流行前の元年度(19,841人)と比較すると5,334人の減少。外来リハビリ利用者総数（理学療法、作業療法、言語訓練の合計）はのべ6,632人で、前年度比760人の減少であった。

②小児発達外来(検査、診断、心理、リハビリ、投薬など)の受診状況（表2）

新患は329人で前年度比+39人と増加。発達外来の総受診数は、リハビリ利用者総数減少の影響もあり、前年度比795人の減少であった。

③その他診療科の受診状況（表2）

- ・小児科一般診療は前年度比-542人と大きく減少。令和4年度は新型コロナウイルスの急速な感染拡大があり、小児科ではセンター利用者への院内感染を避けるため発熱者など感染症状を有する患者の診療を制限した影響と思われる。
- ・その他、精神科は前年度比+27人と微増した以外は、内科、皮膚科、リハ科は前年度よりも減少した。

④保険外診療の受診状況（表3）

- ・コロナ禍の中、小児の予防接種、乳児検診は時間枠を設けて実施を継続したが、前年度より増加した。
- ・インフルエンザ予防接種は前年度同様、一般向け接種は行わなかった。
- ・新型コロナワクチン接種は705人（昨年度比1,231人減）に行った。

※一般健診は法人他施設利用者(入園者含)、新採健診、職員健診、保育園入園前健診の合計

＜表 1. 外来受診者総数＞

	青葉園入所	若木園入所	法人職員	リハビリ	その他外来	合計
3 年度	1,980	1,436	487	7,392	5,024	16,319
4 年度	1,945	1,444	195	6,632	4,291	14,507

＜表 2. 診療科別外来受診状況＞

	小児科	発達外来	精神科	内科	皮膚科	リハ科	合計
3 年度	1,026	10,674	3,615	251	450	70	16,086
4 年度	484	9,879	3,642	193	268	42	14,508

＜表 3. 保険外診療＞

	一般健診	乳児健診	予防接種	インフル予防接種	新型コロナワクチン
3 年度	365	59	823	754	1,936
4 年度	372	77	872	735	705

(2) リハビリテーション課

①安全で継続しうるリハビリテーションサービスの提供

- ・施設基準に基づいた入園者、在宅利用者への理学療法（PT）、作業療法（OT）、言語聴覚療法（ST）を実施した。
- ・感染対策のため、「入園リハビリ」「外来リハビリ」「地域支援」「児童発達支援」の4つの業務分担体制を構築した。
- ・第2生活棟は言語聴覚療法士の配置が行なえず、食事やコミュニケーション面について、理学療法や作業療法でフォロー体制を構築した。
- ・3月末より入園リハビリと外来リハビリの分担を解除し、感染対策を継続しながらサービス提供体制を再構築する準備を行った。

②教育機関、行政機関へのニーズ対応

- ・県内在住の希望者、通所事業所、教育機関（学校、幼稚園、保育園）に対して「外来相談」「訪問相談」「講師派遣」を行った。
- 「出前講座」は各 PT・OT・ST が講義資料を作成し教育機関へ講義を行った。

③法人内施設ニーズへの対応

- ・摂食評価ニーズについては言語聴覚療法（ST）が動画や訪問相談にて対応した。
- ・福祉用具作製相談にて密に連携しスムーズなニーズ調整と管理を行った。

④専門性の研鑽

- ・担当分野を明確化。オンラインアプリを用いての園内勉強会を開催。
 (PT)「疼痛」「呼吸」「小児運動発達」 F-WORDS の考え方をを用いて症例検討会を実施
 (OT)「日常生活動作」「福祉用具」「発達障害の検査」 視線入力装置の導入
 (ST)「摂食嚥下」「ソーシャルスキル」

(3) 歯科

①診療実績

- ・実患者数（3,694名）とのべ患者数（3,970名）は、それぞれ前年度比96.3%、94.6%であった。
- ・他施設からの紹介患者は70名であった。
- ・全身麻酔は54名に実施した。

②保険収入

- ・保険点数(4,104,346点)は、前年度比94.9%であった。

③研究活動・学会発表等

《歯科医師》

- ・第39回日本障害者歯科学会学術大会においてポスター発表。
- ・第39回日本障害者歯科学会学術大会シンポジウムのコーディネーター。

《歯科衛生士》

- ・歯科衛生士（寶亀幸子）が園内研究発表会において研究発表。

④地域への貢献、その他

- ・歯科衛生士学校への講師として歯科医師1名を派遣した。（3校：九州医療専門学校・佐賀歯科衛生専門学校・久留米歯科衛生専門学校）
- ・佐賀県の障害（児）者・難病患者等歯科保健事業において障害者等歯科保健研修会の講義用資料作成を行った。
- ・佐賀県歯科医師会主催「障害をもつ人の口腔ケア支援のヒントと歯科との関わり方」研修会（オンライン）で歯科医師1名、歯科衛生士1名（寶亀幸子）が講演を行った。

< 歯科受診者 >

(のべ患者数)

	若楠療育園	青葉園	若木園	一般外来	職員	合計
R 1 年度	739 名	1,206 名	269 名	1,911 名	44 名	4,169 名
R 2 年度	663 名	1,284 名	167 名	1,814 名	65 名	3,993 名
R 3 年度	750 名	1,210 名	244 名	1,941 名	51 名	4,196 名
R 4 年度	550 名	1,190 名	248 名	1,933 名	49 名	3,970 名
前年比	73.3%	98.3%	101.6%	99.6%	96.0%	94.6%

＜他施設からの紹介の状況＞

	開業歯科医 院	佐賀整肢学 園・歯科	久留米大学 病院歯科口 腔医療セン ター	聖マリア病 院・歯科	その他	合計
R 1 年度	27 名	3 名	3 名	2 名	2 名	37 名
R 2 年度	22 名	17 名	4 名	1 名	8 名	52 名
R 3 年度	38 名	21 名	15 名	0 名	3 名	77 名
R 4 年度	36 名	14 名	14 名	1 名	5 名	70 名

(4) 栄養課

①栄養管理・入園者の食事（1 日昼現在）

＜食種別人数の変化＞

令和 4 年 4 月 入所 80 名		令和 5 年 3 月 入所 78 名	
常食 (経管栄養併用含)	46 (4)	常食 (経管栄養併用含)	45 (3)
幼児食	2	幼児食	3
減塩食	0	減塩食	0
糖尿病食	0	糖尿病食	0
脂質異常食	1	脂質異常食	1
臍臓食	1	臍臓食	1
消化食	2	消化食	1
ゼリー食	1	ゼリー食	1
離乳食	1	離乳食	0
胃ろうペースト食	2	胃ろうペースト食	2
経管栄養	16	経管栄養	17
経管栄養（昼なし）	3	経管栄養（昼なし）	3
絶食	1	絶食	1

＜食形態別人数の変化＞

	常食	荒刻食	刻み食	ソフト食	ミキサー食	胃ろう ペースト食	その他
令和 4 年 4 月	14	5	18	9	10※	2	1
令和 5 年 3 月	15	5	17※	9※	9※	2	1

※幼児食・離乳食含

②地域支援・児童発達の昼食数

事業名	月平均食数
生活介護	161
児童発達	35（発達 24、重心 11）
託児所	148

事業名	年間延べ数
日中一時	朝 2 昼 101 夕 20
短期入所	朝 252 昼 307 夕 258

（５）薬局

- ・療育園、施設の調剤数の変化はみられない。
- ・一般外来の調剤数は減少。外来コロナ対策で外来受診者制限を行っていたため、感染症の流行による調剤数の増加はみられなかった。また、受診者制限による病院離れも調剤数減少に影響していると考えられる。小児神経系医薬品（コンサータ、メラトベル等）の処方 は年々増加している。
- ・薬品の入荷困難な状況は続いている。流通の不安定な状況は暫く続くものと予想される。処方に影響が出ないよう在庫を増やし、流通状況を把握しながら在庫管理をしている。

<各施設の調剤数>

	若楠療育園	青葉園	若木園	グループホーム	一般外来	合計
令和２年度	13,272	10,329	5,148	1,101	7,643	37,493
令和３年度	11,733	9,559	5,260	1,129	7,154	34,835
令和４年度	11,664	9,450	5,369	1,015	6,316	33,814

（６）放射線

- ・令和４年度の検査件数は 13%減少した。

<エックス線撮影件数>

平成 30 年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度
773 件	686 件	680 件	684 件	606 件

＜令和４年度 X線検査総数＞

	検査部位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
撮影室 ・ ポータブル	胸部	42	134	99	31	9	7	14	12		2	9	16	375
	腹部		4	2	1	2	1	1	2		1	1	1	16
	躯幹骨	3	4				2	1					3	13
	四肢骨	1	3	1	1	2		1	2	1		1		13
	全脊椎	1	1	1			2		1			2	3	11
	PEG・MT交換	11	9	6	9	9	5	11	10	5	4	10	7	96
	セロファ	1												1
	骨塩定量			1		4		9	17	7		7	4	49
	パノラマ	4	2	2	2	1	2	2	3	2		3	3	26
	小計	63	157	112	44	27	19	39	47	15	7	33	37	600
透視室	PEG・MT交換	1		1	1						1	2		6
総計		64	157	113	45	27	19	39	47	15	8	35	37	606

２ 入所支援部

（１）看護課

①10 対 1 看護体制の継続と看護・介護サービスの向上

- ・10 対 1 看護体制は継続することができた。新採看護師 3 名が入職、プリセプター教育を実施し、園内研究発表と重心看護の気付きへとつなげることができた。
看護・介護実習は受け入れを中止。オンラインを活用し、医療・看護面の情報を発信した。
- ・入園者 6 名が高齢化、重症化で亡くなられ、新規入園者は在宅から 2 名と同法人施設から 2 名。昨年と同様に関係事業所と連携を図った。
- ・研修は主にオンライン研修に参加。新人看護合同研修会、重症児者への 3 大ケア、てんかん基礎講座、看取りケアなど重症心身障害と福祉を学び、委員会で情報を発信できた。
- ・看護記録委員会ではSOAP記録の継続とラダー教育、看護マニュアルの見直しに取り組んでいる。

②短期入所事業と居宅系サービスの充実

- ・登録者 41 名 ・新規契約者 0 名 ・年齢層 10 歳～53 歳
- ・年間延べ利用人数 358 名（前年度比 160 名増）
- ・1 日あたり平均利用者数 0.98 名 ・緊急受け入れ 4 名（内ロングショート 1 名）
- ・アクシデント 2 件
- ・新型コロナウイルス感染症対策として 8 月より、利用者へ利用前の抗原検査を実施

した。利用者の健康状態をより正確に把握できるようになり、利用者の安心感だけではなく、入園者や生活棟職員が安心して利用者を受け入れる体制を整えることができた。

- ・短期入所事業でも、感染対策としての基本のルールを策定しているが、主たる介護者の突然のけがや入院等の事情を考慮し、園長許可のもと、利用回数や日数の制限を解除し、柔軟に対応した。
- ・生活棟職員やその家族にコロナ陽性者及び濃厚接触者が発生した場合や生活棟でのクラスター発生時において、療育部長の指示のもと各生活棟の師長と連携を図り、必要に応じて利用調整を行い、利用者に大きな混乱をもたらすことなくサービスの提供することができた。
- ・感染対策のため、利用者サービスの居室を観察室としたが、見守りの困難さがあり、ベビーモニターを購入した。離れていても利用者を見守れるように対策を行い、利用者の安全を守りつつ職員の負担軽減を図った。
- ・地域で生活する医療的ケア児等の就園をサポートするために、看護職員の派遣時間を増やし対応した。また新たに、佐賀県医療的ケア児等在宅生活支援事業の送迎支援事業への取り組みを開始した。

③感染防止・医療安全対策の強化

- ・報告書の電子化の運用が確立しデータ管理がスムーズになった。その結果として、インシデント報告から、上半期（3月－8月 82 件）下半期（9月－2月 59 件）当事者に係る要因として、「確認を怠った」と「観察を怠った」が最も多かった。場面別報告では昨年と同様に「介護・支援に関する場面」が多く、ヒヤリハットを増やす取り組みが減少したためと言える。
 - ・新たに4月から週カンファレンスを実施し、事例の検討を行い事故の対策を検討し再発防止に繋げている。
 - ・園内研修として、危険予知訓練（KYT）とアンガーマネジメントをコロナ禍のため各課で研修を行った。
 - ・感染対策では、今年度もコロナウイルスワクチン接種が始まり希望する入園者・法人職員に安心・安全に接種して頂ける準備と対応を行った。年間を通して新型コロナ感染対策、職員の外出、外泊届も継続し、勤務前の抗原検査等も実施、感染を園内に持ち込まない対策を講じたが令和5年1月に両生活棟に入園者・職員の同時クラスターが発生した。入園者2名は呼吸状態の悪化で救急搬送し1名は呼吸器管理で帰園され、1名は気管カニューレ挿管等の重症化となり、生活環境が大きく変化した。そのことを踏まえ新型コロナウイルス感染マニュアル及び手順書作成に再度力を入れている。
 - ・各部署のアルコール使用量の数値化は継続、オゾン機械、空気清浄機の使用、また簡易陰圧装置を導入しコロナ陽性者対応や、保護者の面会時に活用した。
- ノロウイルス・インフルエンザは発症することは無かった。

④ユニットケアの充実を図る

- ・面会制限・中止、ボランティアの方との関わりも中止等いろいろな活動制限中、新型コロナウイルス感染を考慮しながら、入園者個々の医療度に応じた支援を行った。
- ・家族の方との関わりも少ない状況で、コロナ感染でクラスターが発生し日々の看護・支援に大きく影響し、ゆっくりと寄り添える関りは減少した。
- ・コロナ感染し重症化や、酸素使用を余儀なくされた入園者もあり、職員も同時感染し人員不足が発生、他部署からの協力で日々の生活支援が出来たという状況もあった。感染状況が減少し、年度末には生活棟交流も解除でき、少しずつ看護・ケアも充実してきた。
- ・コロナ禍も三年目に入り、日々の支援に密を避けることが出来ない医療・介護の現場でも、新型コロナウイルス対応のために、生活様式の見直しと続けていく力を共有できた一年だった。一年遅れた成人式もユニットで協働し開催することができた。

(2) 生活支援課

①安心安全な生活環境の整備と日中活動・行事等の満足度向上

- ・入園者の私物の整理整頓を行い、清潔で快適な環境を目指した。
- ・コロナ感染でユニット交流が禁止となり、入園者同士、職員との関わりが制限された。行事やクラブ活動、特別支援学校もユニット別で行い、感染対策を講じながら小規模で実施した。オンラインで木りんクラブのメンバーが話し合いをしたり、打ち上げをしたりと、非接触にて活動を継続した。
- ・ネット環境を利用し、動画や音楽の活用など充実した活動ができるようになった。
- ・物価の高騰に伴い、日常生活用品費の値上げや個人負担項目の見直しを行い、令和5年4月実施に向け準備を進めた。

②家族との信頼関係の構築や関係機関との連携

- ・陰圧装置を導入した対面面会ブースを整備し、家族との触れ合いが可能となった。
- ・令和3年度と同様の対応を行い、縫物・絵葉書のボランティア活動をしていただいた。長引く活動中止で、2団体、2名の方がボランティアを辞退された。
- ・中原特別支援学校では、対面とオンラインの併用で授業を実施。修学旅行で吉野ヶ里公園へ行くことができた。

③人材育成と働きやすい環境づくり

- ・生活棟のクラスター時には、エルガナを使用し情報共有を図った。
- ・時間の確保が難しく、職員面談が思うようにできなかった。

<年間行事>

月	行 事	月	行 事
4 月	花祭り（6日）	11 月	保護者の会美化活動（6日）
6 月	保護者の会美化活動（4日） 総合防災訓練（22日）	12 月	クリスマス会（ユニット別） （12日～16日） 第1生活棟もちつき会（22日） 第2生活棟もちつき会（23日）
7 月	第1生活棟夏祭り（7日） 第2生活棟夏祭り（8日）	2 月	園内研究発表会（8日）
9 月	夜間防災訓練（21日）	3 月	中原特別支援学校卒業式（13日） 保護者面談会（18日～26日）
10 月	療育園祭（ユニット別） （17日～21日）		

※季節・小行事、ユニット単位で行った。

3 地域支援部

（1）地域支援課

本年度、新型コロナウイルス感染症における感染対策を講じながら事業を行うことができていたが、2度の事業休止があった。

また放課後等デイサービスの利用枠を中等部まで広げ、利用ニーズを調整し実施した。

療育活動に関しては、園内活動を中心に個別活動にも力を入れ取り組んでいる。

<各事業利用者数推移>

①生活介護事業

	登録者数	実施日数	利用延人数	1日平均利用者数
令和3年度	31	307	2,890	9.5
令和4年度	30	276	2,401	8.7

・療育活動に関しては、園内にWi-Fiが設置された事によって動画視聴での雰囲気や気分を味わうことが出来る活動が増えている。

②多機能型（重心）児童発達支援・放課後等デイサービス

	登録者数	実施日数	利用延人数	1日平均利用児数
令和3年度	12	240	673	2.8
令和4年度	13	239	523	2.1

・令和4年度より中等部の受入れを開始した。

- ・年齢に応じた療育活動に力をいれ取り組んでいる。

③日中一時支援事業

	利用契約者	利用延件数	1日平均利用件数
令和3年度	52	1,296	3.5
令和4年度	52	1,033	2.8

- ・土日祝日の利用者数が増え、レスパイトも増えている。
- ・感染対策等でお受けができないことが多くあった。

④居宅介護等事業

	利用契約者	利用延件数	1日平均利用件数
令和3年度	18	1,186	3.2
令和4年度	11	1,064	2.9

- ・感染対策等で自宅での支援が難しい事が増えている。
- ・新規で移動支援や同行援護の依頼が増えている。

⑤福祉有償運送サービス

	利用契約者	サービス延件数
令和3年度	13	69
令和4年度	13	58

- ・生活介護事業の福祉有償運送サービスを休止しているが個別での対応は実施している。

(2) 総合相談室

新型コロナウイルス感染予防対策を実施しながら各事業に取り組み、会議等への参加や巡回支援、専門員の派遣など継続して行っている。

令和4年4月より（新規）鳥栖・三養基地区相談支援事業業務を開始した。行政及び2か所の総合相談支援センターと連携を図りながら業務遂行している。

①計画相談事業

	障害者	障害児	計
令和3年度	959	302	1,261
令和4年度	927	300	1,227

②佐賀県障害児等療育支援事業

	外来相談	訪問相談	施設職員等支援	療育機関支援
令和3年度	1,559	146	128	17
令和4年度	1,558	135	102	23

- ・令和３年度県予算上限額 835 万、令和４年度県予算上限額 798 万円。

③認定調査

令和３年度	53
令和４年度	95

④鳥栖市巡回支援専門員整備事業

令和３年度	250
令和４年度	250

- ・令和３年度鳥栖市予算上限額 300 万、令和４年度鳥栖市予算上限額 300 万。

⑤鳥栖・三養基地区相談支援事業業務

	新規相談者	支援件数
令和４年度	539	1,634

４ 事務部

（１）安定した運営

毎月の各種事業の実績及び会計データの分析と職員の加算取得の配置基準等も月ごとに検証した。

（２）業務の効率化

無線 LAN 環境、ビジネスチャット、共有フォルダ等を活用し情報共有および委員会・会議その他業務の効率化を図った。

（３）職場環境の整備

- ①ハラスメント委員会を中心に、ハラスメント研修その他の取り組みを実施した。
- ②空調設備の入替工事（地域支援棟）を実施した。

Ⅳ 地域社会との交流

１ 実習生の受け入れ

<令和４年度 受入状況>

実習の種類	実 習 校
看護師	純真学園大学 看護学科（リモート） 聖マリア学院大学（リモート） 緑生館専攻看護学科（リモート）
臨床心理士	福岡女学院大学 西九州大学 筑紫女学園大学 １名（１０日間）

2 ボランティア

(1) ボランティア

＜ボランティア数と状況＞

ボランティア延べ総数 30名（月平均2.5名）	
ボランティア内容	・裁縫 ・絵手紙 ・空調、配電の点検整備

3 交流活動

(1) 中原特別支援学校 交流行事への参加

・入学式 ・体育祭 ・卒業式

V 総務

1 職員の状況

＜職員数（年度末）＞

	常勤医師	非常勤医師	常勤歯科医師	非常勤歯科医師	薬剤師	診療放射線技師	歯科衛生士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	臨床心理士	相談支援員
3年度	4	9	1	2	3	2	5	10	8	8	4	10
4年度	4	7	1	2	5	2	5	8	9	8	3	10
増 減	0	-2	0	0	2	0	0	-2	1	0	-1	0

	看護師	准看護師	ケアワーカー	生活支援員	管理栄養士	調理師（員）	事務員	環境整備員・送迎職員	施設管理員	ホームヘルパー	子育て支援・託児所職員	合 計
3年度	48	18	22	40	2	15	11	7	1	4	14	248
4年度	42	17	22	41	2	14	11	6	1	4	14	238
増 減	-6	-1	0	1	0	-1	0	-1	0	0	0	-10

※短時間職員を含む。生活支援員には、介護福祉士・社会福祉士・保育士の資格保有者を含む。

2 職員研修

(1) 園内研修

テ ー マ	期 日	講 師
新採職員 OJT 研修	4/14, 15	若楠療育園職員
産業医によるハラスメント研修	6/21	産業医 長野光範様・衛生委員会
診療用放射線の安全利用研修	6 月	放射線安全委員会
KYT (危険予知訓練)	8 月	医療安全事故防止委員会
アンガーマネジメントについて (動画視聴)	1 月	岩山真理子様・医療安全事故防止委員会
標準感染対策 (動画視聴)	2 月	感染防止委員会
他部署を知ろう (新聞製作)	2 月	研修委員会
医療・介護現場におけるハラスメントについて	3/4	弁護士 江越正嘉様・ハラスメント委員会

(2) 園内研究発表会 (令和5年2月8日)

発表演題	発 表 者
ユニット入園者の穏やかな時間のための O 氏の支援方法	生活支援課 (第1生活棟) 山村俊介
摂食嚥下障がいへの検討	第2生活棟 松尾喜國 佐田泰信
「F-words」を中心においた連携体制の確立 ～障害を持つ児の楽しみの拡大を目指して～	リハビリテーション課 椋野翔椰
多動や不注意の傾向のある幼児への関わり方に対する母親支援の検討	児童発達支援センター 石郷摩耶 宮部朋華
利用者に安定した食事提供 ～クックフリーズを用いて～	栄養課 綾部文香 武石愛
経管栄養者の気管切開と口腔との関連 —咬合状態の検討—	歯科 寶亀幸子
タッチケアの普及に向けた利用者の満足度調査と 今後の展望	どんぐりセンター 高尾美智

3 防犯防災管理

- (1) 毎月1回、職員の防災意識の向上、役割分担体制の把握、災害時の行動力を培うために、通報・初期消火・避難誘導の防災訓練、さらに災害時の朝食提供訓練も同時に行った。新型コロナウイルス感染防止のため集合訓練ではなく各課単位で訓練を実施した。
- (2) 例年9月に今町・弥生が丘・柚比地区の方の参加協力のもと実施している夜間防災訓練 (夜間非常時の職員の行動、緊急連絡網の稼働等訓練) については、新型コロナウイ

ルス感染防止のため職員のみで緊急連絡の訓練を行った。緊急連絡訓練は園内情報共有アプリを使用して実施した。

- (3) 消防設備定期検査(年2回)、自主点検(随時)を実施。
- (4) 有事を想定しての様々な災害シミュレーション訓練の実施。
- (5) 継続して防犯対策を実施。

4 施設整備及び環境の整備状況

- ・パソコン8台(入替6・新規2) ・ベッド3台 ・モーターリフトムーバー
- ・薬剤監査システム ・レントゲン画像解析ソフト ・非接触面会室整備
- ・ダイアグノデントペン(歯科治療器具) ・冷温蔵配膳車
- ・WISC-V 知能検査セット ・プロジェクター ・アルコールチェッカー
- ・オンライン資格確認システム(歯科) ・木製家具設置(託児所)
- ・クロノス(勤怠管理システム)更新 ・ほのぼのクラウド使用权更新
- ・空調設備更新(地域支援棟)

5 寄付

ご 芳 名	
金子 竜助 様	嬉野 政則 様
川原 増雄 様	佐藤 栄子 様
九州納豆組合 様	JA 佐賀県女性組織協議会 様

6 苦情報告

No.	内 容	対 処	解決
1	外泊のルールの緩和、面会時間の延長などがどうにかならないか。(新型コロナウイルス感染症予防に関連して)	入所部門で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生すると、重症化リスクが高い方ばかりであることを丁寧に説明し、ご協力いただいている。	済・未
2	通所事業で新型コロナウイルス陽性者がでたため、サービスの一時休止のお電話をした際、説明が不十分であった。	苦情解決委員会で取り上げ、家族に連絡する際はあらかじめ伝達事項を整理したうえで、丁寧にゆっくり説明するように改めて共通認識を持った。	済・未

7 虐待報告

No.	内 容	対 処	解決
	な し		済・未

若楠児童発達支援センター

I 運営概要

1 運営方針（実施結果）

若楠児童発達支援センターは、社会福祉法人若楠の基本理念のもと、身近な地域の障がい児支援の拠点施設として、障がいのあるなしにかかわらず様々な子ども達のニーズに合わせた支援に努め、さらに、産前産後の子育て支援の定着により、幅広くより身近に子どもの健やかな育ちと安心した子育てができる地域づくりに取り組むことができた。新型コロナウイルス感染禍には施設の感染防止策を厳守し、安全で安心して利用できるセンターを目指した。

（1）地域の障がい児や家族への支援

若楠児童発達支援センター事業を通して、個別性を考慮し面談会やお迎えの際のご家族との情報交換等を密に行うことにより、利用児一人ひとりにあった支援に努めた。

（2）地域の障がい児を預かる施設への支援とネットワーク強化の推進

佐賀県障害児等療育支援事業や保育所等訪問事業等を通して、幼保育園・学校・施設等の要請に応じて、受入れ、出張対応を行った。また、県内の療育機関や自立支援協議会等のネットワーク会議にも積極的に参加し、連携の強化に努めた。

（3）障がい児・健常児の共生の場として（育児不安を含めた）の拠点施設の役割を果たす

どんぐりセンター若楠と、出張ひろばポントスの2か所の子育て支援センター開設を行い、より身近な場所での子育て支援を行うことができた。

（4）地域の発達グレーゾーン児等の支援と家族・関連機関への具体的な支援の実施

どんぐりセンター若楠、佐賀県障害児等療育支援事業、若楠児童発達支援センターの各々の事業機能を効果的に活かし、療育や家族の相談等を積極的に受け入れた。

（5）産前産後の相談支援等の実施

産前産後子育てサロン（地域福祉振興基金助成事業）は終了するが、どんぐりセンター若楠内で「赤ちゃんひろば・プレママサロン」として事業を継続し、引き続き産前産後の子育て支援を行っていく。リピーターも増え、子育てへの安心感と孤立感の払拭に繋げることができた。

II 利用者の状況（登録者）

1 年齢

＜どんぐりセンター若楠＞

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上	プレママ	合計
人数	57	24	26	3	3	11	124

＜児童発達支援センター＞定員 31 名

年齢	3 歳未満	年少	年中	年長	合計
男	13	7	14	12	46
女	4	3	1	4	12
合計	17	10	15	16	58

＜放課後等デイサービス＞定員 10 名

年齢	1 年生	2 年生	3 年生	合計
男	6	7	5	18
女	1	0	0	1
合計	7	7	5	19

＜保育所等訪問支援＞

年齢	保育園	幼稚園	1 ～3 年	4 ～6 年	合計
男	2	0	2	2	6
女	0	0	0	0	0
合計	0	0	2	2	6

Ⅲ 事業の実施状況

1 子ども・子育て支援事業

(1) どんぐりセンター若楠

- ・新型コロナウイルス感染防止策を厳守し、定員を 5 組に減らし予約制で開園した。
- ・一人ひとりとゆっくり対応でき、より丁寧な子育て支援を行うことができた。
- ・家族の相談の中から、療育等支援事業などの相談や診療に繋げることができた。また家族の持つ子育てに対するエンパワメントを引き出す支援を行うことができた。

＜月別利用状況＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
どんぐりセンター若楠	98	71	117	158	138	92	121	123	188	15	213	202	1, 536
出張ひろばポントス	3	0	17	8	25	21	38	31	4	22	26	18	213

(2) タッチケア（ふれ愛）教室の開催

- ・タッチケアの啓発的活動と実技を通しての愛着形成の啓発
- ・親子に限らず、幼保育園へのお出張訪問と地域子育て支援

＜月別利用状況＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
タッチケア	6	9	13	13	14	16	22	13	15	27	20	5	173

(3) わかくす託児所

- ・家庭的保育所として定員12名、2歳までの子ども預かっている。
- ・地域の子どもたちや法人内の職員の子どもを預かり、新型コロナウイルス感染対策を厳重に行う中、それぞれの子どもたちの健やかな成長を促した。
- ・法人内の職員に対して、育児休業後に安心して職場に復帰できる一助を担っている。

＜月別利用状況＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳児	14	11	0	0	19	36	20	0	27	0	96	7	230
1歳児	101	94	101	90	72	75	80	104	56	68	85	93	1,019
2歳児	16	13	38	36	41	31	60	67	91	87	0	105	585
3歳児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	131	118	139	126	132	142	160	171	174	155	181	205	1,834

2 若楠児童発達支援センター

イ) 制度に対応した適切な配置基準等と安定的な運営

- ・基準人員を確保し療育を提供できた。感染対策による利用制限の影響により、総利用者数は減少したが、事業所内で感染者や濃厚接触者が発生しても、広げることなく運営できた。
- ・感染防止対策実施状況は速やかに情報を公開し、保護者の不安軽減に努めた。

ロ) ガイドラインを根底にその成果に対する評価の公表と改善

- ・保護者等評価の意見を参考に、指導室の環境整備と保護者交流会を行った。

ハ) 療育参観や親子療育、保護者交流会等による家族支援

- ・保護者療育参観は会場をプレイホールに移し、療育活動のビデオ視聴や療育体験のほか、他家族との接触を避ける形での親子遊びを行った。
- ・保護者交流会は参加者数を限定し、意見交換を行った。

二) 関係機関や障がい児の通う保育所等との連携による地域支援

- ・オンライン支援を基本としつつ、感染流行を見極め、訪問先と感染防止対策を共有し、実施した。

ホ) 就学準備学習会やつみきセミナー等家庭療育支援学習会の開催

- ・つみきセミナーにおいては、感染拡大傾向が好転しなかったためオンラインにて子育てのコツとヒントについて講義を行った。
- ・就学準備学習会は感染対策を徹底し、予定通り実施した（オンラインと会場を併用）。

- ・ つみきセミナーにおいては、感染拡大傾向が好転しなかったためオンラインにて言葉と運動機能の発達について講義を行った。ただし、ビデオ会議の操作に不慣れで、当日接続できない保護者もでた。

へ) 職員の指導力及び専門性のスキルアップ

- ・ コロナ禍における研修機会の確保として、研修動画配信サービスを導入し、スタッフ全員が任意の時間に受講できるようにした。

ト) 各種研修会の実施

- ・ 令和4年度佐賀県ペアレント・プログラム支援者養成事業の実施（7日間）
- ・ 令和4年度佐賀県医療的ケア児等コーディネーター養成等研修の実施（4日間）

<利用者数推移>

①児童発達支援センター

	利用契約者	実施日数	利用者延べ人数	1日平均利用者数
3年度	56	238	4,358	18.3
4年度	58	238	3,518	14.7

②放課後等デイサービス

	利用契約者	実施日数	利用者延べ人数	1日平均利用者数
3年度	23	232	1,341	5.8
4年度	19	237	1,226	5.2

③保育所等訪問支援

	利用契約者	実施日数	利用者延べ人数	1日平均利用者数
3年度	4	24	24	1.0
4年度	7	28	29	1.0

実習生受入れ状況

実習の種類	学校
保育士	中村学園大学 福岡こども短期大学 九州産業大学

若木園

I 運営概要

1 運営方針（実施結果）

法人の基本理念を踏まえ、地域に役立つ障害者支援施設を目指し、重度の知的障害や強い行動障害をもつ利用者、高齢・機能低下による医療・介護が必要な利用者に丁寧な支援を行った。感染症対策ではクラスターを経験したが、生活を支える支援を行った。地域の障害者福祉ニーズ要請に応えるため、新規利用者の受入れ、緊急短期入所、各種の相談支援を行った。児童サービスにおいては、放課後等デイサービスから保育所等訪問支援へ移行し、日常生活の支援を行った。また、専門的な支援を行うため外部研修（ウェブ研修中心）や園内研修を行った。

管理棟及び本館の施設設備も老朽化が著しくなっており、必要に応じ営繕を行いながら、利用者の生活環境の整備と働きやすい職場環境づくりを行った。

各種委員会の内容を充実させ、より実践的な支援や危機管理、働きやすい職場環境につなげるため産業医の指導を受け実践している。また、事業を支える職員の人材確保にも力を入れた。

II 利用者の状況

1 年齢別・性別

（施設入所）

令和5年3月31日現在（名）

性別 \ 年齢	20歳未満	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65歳以上	合計	平均年齢
男	0	1	13	17	8	1	2	42	44.0
女	0	0	7	8	5	3	5	28	49.5
合計	0	1	20	25	13	4	7	70	46.7

※最少年齢 28 歳 ※最高年齢 77 歳

2 障害支援区分

（名）

性別 \ 区分	3	4	5	6	合計	平均区分
男性	0	1	9	32	42	5.73
女性	0	1	1	26	28	5.89
合計	0	2	10	58	70	5.81

III 事業の実施状況

1 入所支援・生活介護

- （1）高齢化、身体機能低下、疾病のある利用者に対して専門家会議を開催し、統一した支援体制を図り安心して生活できる環境を整えた。
- （2）障害特性理解と利用者一人一人に合った個別支援や生活支援の実現に向け、職員の園内現場実習を実施した。
- （3）利用者37名を対象に、作業療法士によるリハビリマネジメントを実施し、心身の

機能低下予防と楽しみある活動へと繋げた。

- (4) 保護者花の日を設け職員と保護者との親睦が図れる交流の場を設けた。

2 通所生活介護

- (1) 重度化・複雑化するニーズに対し、丁寧な対応の統一を図った。
- (2) 他事業所との情報共有と将来の生活像を見据えた地域連携のため、担当者会議やケース会議を積極的に実施した。
- (3) 利用者の特性理解及び専門性を高めるため、職員勉強会を年4回実施し、利用者支援に活かした。
- (4) 連絡帳を活用し、写真等でより分かりやすい活動報告を継続した。
- (5) 多様化する相談に対し、丁寧な対応と他機関との連携に努めた。

3 保育所等訪問支援

- (1) 日常生活におけるニーズに対し、学校訪問しながら支援を組み立てた。
- (2) 利用者の特性を理解し、専門性のある助言に努めた。
- (3) 学校内という見えない状況に不安を抱えている保護者に向けて、訪問報告書を作成。保護者の安心へ繋げるため、支援の在り方や利用者の様子等を報告した。
- (4) 計画相談、他事業所、学校と連携、会議を設けながら総合的に児童の成長発達支援に努めた。

IV 保健衛生

1 健康管理

- (1) 利用者疾病の早期発見及び健康管理のため、年2回の健康診断を実施。なお、異常のある方へは、適宜二次検査、治療を実施した。
- (2) 支援員、管理栄養士、作業療法士など多職種と連携し体調異常の早期発見と治療・回復に繋げることができた。
- (3) タブレット使用(写真や画像、動画の共有)により、直接受診ができない場合でも主治医への正しい情報提供を行った。
- (4) 地域の医療機関との連携強化を図り、緊急時や専門医療の受診対応を行った。また、専門医療については、定期的な専門医の診察を受け、治療を行った。
- (5) 感染予防委員会(定期・臨時)の延長として感染対策に必要な物品を整え、職員指導(吐物処理、ガウンテクニック、手洗い等)と、適宜予防対策の検討を行った。
- (6) 感染症対策レベル表を用い、職員と利用者、ご家族や外部の対応をレベルごとに指示を明確にし、感染時対応の統一を図った。
- (7) 入園者(保護者承諾のもと)と職員に対し、感染や重症化防止の為コロナワクチン・インフルエンザ予防接種を実施した。
- (8) 保健衛生日誌の記録を活用し、医務間の情報共有と連携を図った。
- (9) 保護者への健康管理情報の提供や健康相談を適宜実施することで、信頼関係を築くことに努めた
- (10) 新型コロナウイルスクラスターへの対応として①利用者及び職員への抗原検査②主治医や地域医療との連携③症状観察・内服管理④職員への感染症対応指導⑤感染物品補充

管理を行い感染症終息に努めた。

2 健康診断等の実施状況（若楠療育園）

実施期間	内 容	実施者数
R4. 4/25～5/28	健康診断（血液・尿・胸写・心電図・他計測等）	72 名
R4. 10/24～10/31	健康診断（聴打診・血圧・体重・一部採血）	70 名

3 入園者の疾病状況（若楠療育園）（延べ人数：名）

科 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
精神科	72	70	70	72	70	70	68	136	67	69	70	71	905
内 科	47	21	31	14	74	33	40	45	26	48	58	34	471
歯 科	17	13	27	15	6	12	15	18	5	8	25	15	176
皮膚科	11	10	7	5	2	2	8	7	2	2	5	6	67
整形外科	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3
リハビリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	148	115	135	106	152	117	131	206	101	127	158	126	1,622

4 入園者の協力医療機関受診状況（延べ人数：名）

医療機関名	受診状況	医療機関名	受診状況
鹿毛病院	51	原三信病院	5
岩岡整形外科	10	久留米大学病院	1
おか眼科	36	聖マリア病院	1
本間病院	4	肥前医療センター	14
ごんどう皮膚科	50	今村病院	14
まごころ医療館	1	くるめ病院	1
黒岩耳鼻科	6	権藤医院	1

5 入園者の入退院状況

病院名	疾患名	期間
白石保養院	統合失調症	R3. 8/11～入院され R4. 4/20 退院
鹿毛病院整形外科	左大腿骨頸部骨折	4/11～6/17
鹿毛病院	肺炎・巨大結腸・敗血症	6/27～9/14 死亡退院
鹿毛病院	胃癌・転移性肝腫瘍	7/4～7/26 退園（8/19 死去）
東佐賀病院	新型コロナウイルス感染症	8/12～8/16
肥前精神医療センター	新型コロナウイルス感染症	8/19～8/28
鹿毛病院	肺炎・小腸炎	9/26～10/7
若楠療育園	嚥下機能低下	10/7～10/24 退園
如水会 今村病院	気管支喘息	11/10～11/15
人徳会 今村病院	肺炎	3/6～3/24

6 保健の実施状況

実施事項	回数	対象	実施事項	回数	対象
検温	1 日 2 回	全員	皮膚科受診	週 1 回	異常者
体重測定	月 1 回	全員	歯科受診	年 3 回	全員
	異常者随時		歯科受診	随時受診	異常者
血圧測定	毎月 1 回	全員	整形外科受診	週 1 回	異常者
	異常者随時		療育園以外の 医療機関受診	随時受診	異常者
身長測定	年 1 回	全員			

7 感染症罹患状況報告

感染症	期間	罹患者数
新型コロナウイルス感染症	8/12～9/11	29

V 食事班

1 実施状況

人員不足により月 6 食弁当対応を行っているが、食事については、利用者個々のアセスメント表に基づき、栄養バランスのとれた献立を作成。多くの食材を使用し、見た目にも鮮やかに工夫した調理を行った。また、適切な時間に提供することができた。

栄養ケアマネジメントにより、看護師・支援員との連携を密にして、一人ひとりの栄養状態の把握はもとより、病態に合わせた食事や運動の取入れを実施することができた。

2 食事利用状況

月 食	4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月		10 月	
	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期
朝食	1,995	18	2,060	19	1,968	17	2,014	20	2,038	5	1,974	11	1,973	14
昼食	1,983	283	2,018	235	1,943	312	1,974	295	2,014	169	1,951	255	1,955	286
夕食	1,989	17	2,066	21	1,963	18	2,007	19	2,043	5	1,973	12	1,962	13
小計	5,967	318	6,144	275	5,874	347	5,995	334	6,095	179	5,898	278	5,890	313
合計	6,285		6,419		6,221		6,329		6,274		6,176		6,203	

月 食	1 1 月		1 2 月		1 月		2 月		3 月		合 計	
	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期	入園者	通所 短期入所
朝食	1,924	17	1,999	36	1,938	47	1,813	48	2,003	57	23,699	309
昼食	1,919	291	1,951	259	1,940	237	1,800	243	1,971	294	23,419	3,159
夕食	1,927	18	1,968	37	1,952	48	1,805	47	2,000	60	23,655	315
小計	5,770	326	5,918	332	5,830	332	5,418	338	5,974	411	70,773	3,783
合計	6,096		6,250		6,162		5,756		6,385		74,556	

常食入園者 52 名
 きざみ食入園者 3 名
 粗刻み食入園者 14 名
 腎臓病食（減塩食） 1 名
 腎臓病食（減塩・低蛋白食） 1 名
 合計 71 名

VI 地域支援

1 生活介護事業利用実績（通所）

（1）年齢

（名）

年齢 性別	20歳未満	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65歳以上	合計	平均年齢
男	0	2	6	1	0	0	0	9	33.3
女	0	3	5	0	1	0	0	9	31.9
合計	0	5	11	1	1	0	0	18	32.6

※最少年齢 20 歳 ※最高年齢 58 歳

(2) 障害支援区分 (名)

性別 \ 区分	3	4	5	6	合計	平均
男	0	0	4	5	9	5.6
女	0	2	5	2	9	5.0

(3) 利用者数 (延べ人数：名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	241	209	270	252	154	231	258	253	222	189	201	248

合計 2,728 名
前年度比 -774 名

2 保育所等訪問支援事業実績

(1) 年齢 (名) (歳)

性別 \ 年齢	小学生	中学生	高校生	合計	平均年齢
男	3	0	0	3	10.3
女	1	0	0	1	11.0
合計	4	0	0	4	10.5

(2) 利用者数 (延べ人数：名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	0	0	0	4	0	4	7	6	4	3	6	1

合計 35 名
前年度比 +35 名

3 短期入所事業実績

(1) 年齢 (名)

就学前	小学生	中学生	高校生	18～20 歳
男 0	1	0	0	1
女 0	1	0	0	0
21～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50 歳以上	合計
男 5	4	2	0	13
女 5	2	0	0	8

(2) 障害支援区分

障害支援区分	1	2	3	4	5	6	合計
男	0	1	0	4	3	4	12
女	0	0	0	1	4	2	7
男 (児)	0	1	0	0	0	0	1
女 (児)	0	1	0	0	0	0	1

(3) 利用者数

(延べ人数：名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用	35	37	35	39	9	22	28	45	53	60	63	73	499

前年度比+97名

4 日中一時支援事業実績

(1) 年齢

(名)

就学前	小学生	中学生	高校生	18～20歳
男 0	1	7	0	0
女 0	1	2	0	0
21～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計
男 3	2	0	0	13
女 3	1	1	0	8

(2) 利用者数

(延べ人数：名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用	27	30	36	32	19	19	32	34	32	28	29	30	348

前年度比+186名

VII 地域社会との交流

1 実習生

(名)

実習の種類	実習校	期間	人数
高等部現場実習	筑後特別支援学校	令和4年6月13日～6月24日	1
中学部職場見学	中原特別支援学校 鳥栖田代分校	令和4年7月12日	教員3 生徒6
中学部現場実習	中原特別支援学校 鳥栖田代分校	令和4年11月21日～11月22日	1
保育実習	佐賀女子短期大学	令和4年8月22日～9月1日	1
介護体験実習	西九州大学	令和4年8月15日～8月16日 令和4年10月11日～10月13日 令和4年11月7日～11月11日	3
介護実習①	西九州短期大学	令和4年8月1日～8月5日	2

2 ボランティア

*感染症防止対策を行っているため受入を制限した。

3 交流活動

*感染症防止対策を行っているため参加を自粛した。
地域貢献活動として、「山浦町スポーツゴミ拾い」を実施した。
麓地区文化祭への作品出展と作品見学を実施した。

Ⅷ 総務

1 職員状況

(名)

	施設長	児童発達支援責任者 サービス管理責任者	生活支援員	保育士	児童指導員	看護師	管理栄養士	調理師(員)	事務員	環境整備員	運転手	合計
3年度	1	3	49	1	1	2	1	7	3	2	1	71
4年度	1	3	48	0	1	3	2	7	3	2	1	71

※臨時・短時間職員を含む。※生活支援員には、介護福祉士・社会福祉士等資格保有者を含む。

退職者 8名(生活支援員6名 看護師1名 環境整備員1名)

入職者 5名(生活支援員3名 看護師1名 管理栄養士1名)

(入職経緯：新卒2件 民間紹介会社3件)

2 職員研修

(1) 内部研修

月	研修等名	内容	開催地	参加者
4	法人職員研修	新採研修	若楠療育園	麻生・谷口・古賀
	法人職員研修	一年経過者研修	グリーンファーム 山浦	久家・中島 辻本・伊藤
5	法人職員研修	一年経過者研修	どんぐり村	井上・岡村・森健
	園内研修	新採研修	若木園	麻生・谷口・古賀 小野・末廣・江頭
	地域支援課勉強会	自閉スペクトラム症 支援の基本	若木園	地域支援課職員
7	法人職員研修	スキルアップ研修	若楠療育園	竹中・檜崎
	地域支援課勉強会	応用行動分析	若木園	地域支援課職員
	東館男子棟勉強会	障害者支援について	若木園	東館男子棟職員
8	園内研修	障害特性理解勉強会	若木園	参加者職員 23 名
10	法人職員研修	働き方研修	若楠療育園	麻生・谷口・古賀
	法人職員研修	職員研修及び基調講演	若楠療育園	村山・中村良
	園内研修	医療的体験学習	若木園	参加者職員 14 名
11	園内研修	医療的体験学習	若木園	参加者職員 9 名
	地域支援課勉強会	強度行動障害DVD 視聴	若木園	地域支援課職員

1	園内研修	障害特性理解勉強会	若木園	参加者職員 10 名
	地域支援課勉強会	氷山モデルシートの作成	若木園	地域支援課職員
2	園内研修	事例研究発表会	若木園	参加者職員 21 名
	園内研修	介護体験学習	若木園	参加者職員 13 名
3	法人職員研修	事業計画説明会	若楠療育園	村山・中村良
	園内研修	介護体験学習	若木園	参加者職員 5 名

(2) 外部研修

月	研 修 名	会 場	参加者
6	問題解決研修	(ウェブ研修)	山鹿
	強度行動障害支援者養成研修	佐賀市	井浦
		(ウェブ研修)	古賀
7	九州地区職員研修大会	(オンデマンド)	中山・田中み・奥村
	発達障害への理解と対応研修	(ウェブ研修)	大塚
	中堅職員研修	(ウェブ研修)	宮ノ前
	相談支援従事者初任者研修	(ウェブ研修)	立石
	療育の技法	(ウェブ研修)	石橋
8	相談支援従事者初任者研修	(ウェブ研修)	立石
	佐賀県療育支援センター研修	佐賀市	岡村
9	相談支援従事者初任者研修	(ウェブ研修)	立石
	栄養士会福祉事業部第 1 回研修	佐賀市	吉山
10	日本自閉症協会全国大会 佐賀大会	佐賀市	中村良、三島、立石
	応用行動分析 (ABA) 連続講座	(ウェブ研修)	矢野
	臨床実習指導者講習会	(ウェブ研修)	岡村
11	強度行動障害支援者養成研修	(ウェブ研修)	麻生・谷口
	ソーシャルスキルトレーニング	(ウェブ研修)	石橋
	応用行動分析 (ABA) 連続講座	(ウェブ研修)	矢野
12	応用行動分析 (ABA) 連続講座	(ウェブ研修)	矢野
1	応用行動分析 (ABA) 連続講座	(ウェブ研修)	矢野
2	応用行動分析 (ABA) 連続講座	(ウェブ研修)	矢野
3	知的障害者の認知症診断基準・早期発見・支援	(オンデマンド)	田中美・中山
	障害をもつ人の口腔ケア支援のヒントと歯科との関わり方」研修会	(オンデマンド)	田中美・奥村

(3) 園内研修

- ・障害者虐待防止に向け、セルフチェックと第三者によるチェックを実施し、面談により個人自身が行動を振り返る研修をおこなった。
- ・虐待防止や不適切な支援についての学習会をディスカッション形式で2回実施した。

- ・人材育成の観点から、チームワーク研修（屋外型チームビルディング研修）を2回実施した。
- ・個人のスキルアップや利用者理解を学び現場で生かす事を目的とし、障害特性理解・医療的体験・介護体験の学習会を項目別に年12回実施した。

3 視察・見学等の受入れ

＊新型コロナ感染防止対策のため受入を制限した。

4 防災管理

毎月1回防災訓練（準夜滞想定）を実施した。また、消火設備の使用体験を訓練時に合わせ実施した。

訓練内容実施報告及び改善書を各部署へ配布し、情報共有と改善を確認し合った。

東館2階車椅子利用者避難（階段降車）の安全な移動体験の研修を実施した。

5 施設整備及び環境の整備状況

（1）施設整備

- ・本館男子棟トイレ修繕工事
- ・植え込み石積工事
- ・東館エアコンガス漏れ工事
- ・東館エアコン室外機修理工事
- ・厨房裏駐車場碎石整形工事
- ・本館スプリンクラー配管修繕工事

（2）備品等整備

- ・ノートパソコン 6台
- ・本館女子棟居室エアコン更新 24台
- ・車椅子用体重計 1台
- ・水中汚水汚物ポンプ 1台
- ・ガス給湯器 1台
- ・自動給水加圧ポンプ 1台
- ・エコキュート圧縮機 1台
- ・自動火災通報装置 1台
- ・栄養管理ソフト更新
- ・ほのぼのクラウド更新

6 寄付

ご芳名
若木園保護者会 様
三塩 敏幸 様

7 苦情報告

No.	内 容	対 処	解決
1	な し		済・未

8 虐待報告

No.	内 容	対 処	解決
1	な し		済・未

青葉園

I 運営概要

若楠の基本理念のもと、青葉園、青葉ホーム弥生が丘ともに利用者、家族、地域から信頼される事業所を目指し取り組んだ。

青葉園では、利用者の高齢化に伴う機能低下等が増え、日頃の体調や支援内容を職員間で共有し、若楠療育園をはじめ地域の機関と相談をし、利用者の生活支援・介護に努めた。また、新たに見守りシステムを一部導入した。新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、日常生活、園内でできる行事等を創意工夫して実施し、コロナ禍での心身のケアに努めた。

新型コロナウイルス感染症対策は、感染対策委員会を中心に感染状況に応じて対応を検討した。園内でクラスターが発生したが、関係機関と連携し、園全体で協力体制を構築し、回復に努めた。また、利用者と家族、家族と職員の繋がりを維持するために、面会等制限の細目な見直し、定期的な連絡を行った。

青葉ホームは、コロナ禍で、外部での活動が減ったため、ホーム内で楽しめる行事の提供に努めた。また、新型コロナウイルス感染症対策では、流行に応じて対策の見直しを図り、陽性者が発生した場合は、迅速に対応し、回復に努めた。

II 利用者の状況

1 年齢

(入所)

令和5年3月31日現在(名)

年齢	20未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70以上	合計	平均年齢
男	0	1	7	25	12	26	13	84	57歳
女	0	1	2	8	8	21	6	46	59歳

(通所)

令和5年3月31日現在(名)

年齢	20未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65以上	合計	平均年齢
男	1	7	2	1	3	0	0	14	33歳
女	0	0	2	2	0	0	0	4	39歳

2 障害支援区分

(入所)

(名)

区分	1	2	3	4	5	6	計
人数	0	0	2	16	56	56	130

(通所)

(名)

区分	1	2	3	4	5	6	計
人数	0	0	2	4	9	3	18

3 短期入所

(1) 利用者数・利用日数（空床）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実利用者数	0	0	1	1	1	0	1	2	0	0	1	2	9 名
延べ利用日数	0	0	7	7	2	0	2	10	0	0	9	21	58 日

※新型コロナウイルス対策にて緊急性の高い利用者のみを受け入れた。

4 日中一時支援

(1) 利用者数・利用日数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実利用者数	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	1	1	6 名
延べ利用日数	0	0	2	0	0	0	3	6	4	0	2	1	18 日

Ⅲ 事業の実施状況

1 活動型

- (1) ユニット活動（散歩、体操、ドライブ、誕生会、調理実習、季節行事、目的別外出等）
- (2) 陶芸クラブ（年8回）
- (3) 利用者の希望に応じた個別活動（買い物、外食等）

2 生産型

- (1) 生産活動の提供
業務受託（清掃等、洗濯）、くすの樹、陶芸教室、軽作業（内職）等の活動を提供し、働くことの喜びややり甲斐の提供に努めた。

3 全体行事

- (1) スポーツ大会（6月）、青葉祭（10月）、若楠感謝 DAY（11月）、クリスマス会（12月）、餅つき（12月）

4 地域交流

- (1) 若楠感謝祭の代替で「若楠感謝 DAY」をくすの樹で開催
- (2) 若楠感謝 DAY で作成した、ペットボトルツリー点灯式開催
- (3) くすの樹にて地域に向けたワークショップ開催
- (4) 弥生が丘まちづくり推進協議会への協力

Ⅳ 生産型活動における生産品等、販売実績

1 収益実績

（円）／年間

	業務受託	軽作業（陶芸）	くすの樹	共通	合計
売上	7,941,737	413,483	3,694,860	199	12,050,279

2 工賃支給額（期末調整金を除く）（円）／年間

生産型	活動型	合計額
1,214,750	944,680	2,159,430

V 医務

1 健康管理・疾病予防

- (1) 緊急時対応マニュアル・個別医療情報シートの更新。救急時や受診時に、医療・生活面での利用者の詳しい情報を病院、他機関へ提供した。
- (2) 年2回の健康診断を実施。結果は家族に報告するとともに、必要な検査については嘱託医の指示のもと家族と相談し対応した。
- (3) 基礎疾患のある利用者は嘱託医へ毎月報告し、状態観察等適切な対応処置を行った。
- (4) 医療機関への通院者、入院者に対し担当医師と情報交換を行い、必要な看護に努めた。
- (5) 利用者の高年齢化、虚弱化による疾病の予防に努めた。また、他職種との連携を図り、成人病、肥満の予防及び対策に努めた。

2 感染対策

- (1) 新型コロナウイルス感染症予防接種、インフルエンザ予防接種を利用者、職員へ説明と承諾を得て実施した。
- (2) 利用者、職員の健康状態の把握と共に、生活環境保清に留意し、基本的な感染対策を励行した。
- (3) 感染対策マニュアルをもとに、職員への情報提供及び感染予防対策の啓発に努めた。
- (4) 感染隔離待機後の利用者、職員に対してコロナ抗原検査を実施した。

3 健康診断、予防接種の実施

実施月	内容
4、5、6	利用者健康診断（春）
10	利用者健康診断（秋）
11	インフルエンザ予防接種
9、10、11、12、1、2、3	新型コロナウイルス感染症予防接種

4 利用者の入院状況

医療機関名	件数	疾患名
やよいがおか鹿毛病院	4 件	脳梗塞・胃瘻造設、前立腺生検 大腸ポリープ切除 2 件
聖マリア病院	1 件	心臓カテーテル検査
肥前精神医療センター	3 件	統合失調症
久留米大学病院	2 件	腎腫瘍 OP、白内障 OP
今村病院	3 件	新型コロナウイルス
東佐賀病院	1 件	新型コロナウイルス
いぬお病院	1 件	統合失調症
合計	15 件	

5 利用者の受診状況

(件)

医療機関	受診数	医療機関	受診数
若楠療育園	1,945	肥前精神医療センター	59
若楠療育園歯科	1,038	いぬお病院	6
やよいがおか鹿毛病院	184	大島病院	30
聖マリア病院	5	ごんどう皮膚科	22
岡眼科	139	前山内科	11
久留米大学病院	46	佐賀大学医学部附属病院	1
光風会病院	10	梅野耳鼻科	12
白水レディースクリニック	2		
		合 計	3,510

VI リハビリテーション

1 実施状況

- (1) 対象者50名の個別リハビリテーションを定期的 to 実施し、利用者の能力維持や評価継続に努めた。
- (2) ユニット単位で集団リハビリテーションを月2回実施し、体操やスポーツ、制作活動、レクリエーションを行った。
- (3) リハビリテーション診察後の身体障害者手帳の申請、補助制度を使用した車いすや装具等の購入に対応し、利用者 に 合ったものを提供した。
- (4) 利用者の状況に応じて、住環境の見直しや福祉器具についての助言を行った。
- (5) 1階男性17名を対象に生活介護リハビリテーション加算の申請、取得を行った。

VII 栄養課

1 給食状況

- (1) グリーンファーム山浦やどんぐり村の食材を使用し、安心・安全な食事提供に努めた。
- (2) 温かい物は温かく、冷たい物は冷たくを心がけ、直前配膳に努めた。
- (3) 季節の献立を意識し、利用者の方々に喜んでいただいた。
- (4) 体調不良や身体状況に応じて個別対応を行った。
- (5) 生活支援員・看護師と連携し、利用者 に 適した食事の提供に努めた。
- (6) 非常時・災害時（厨房停止時）の食事提供ができる体制を整えた。

2 食事利用状況

(食)

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月	
	入所	通所 短期	入所	通所 短期	入所	通所 短期	入所	通所 短期	入所	通所 短期	入所	通所 短期	入所	通所 短期
朝食	3,891	0	4,027	0	3,853	5	3,859	12	3,977	0	3,824	0	3,959	1
昼食	3,768	255	3,557	251	3,641	285	3,607	224	3,811	222	3,654	213	3,654	245
夕食	3,897	0	3,900	0	3,853	5	3,837	14	3,949	0	3,828	0	3,893	1
小計	11,556	255	11,484	251	11,347	295	1,1303	250	11,737	222	11,306	213	11,506	247
合計	11,811		11,735		11,642		11,553		11,959		11,519		11,753	
	11月		12月		1月		2月		3月		合計			
	入所	通所 短期	入所	通所 短期	入所	通所 短期	入所	通所 短期	入所	通所 短期	入所		通所 短期入所	
朝食	3,862	5	3,946	0	3,933	0	3,568	7	3,904	17	46,603		47	
昼食	3,565	255	3,640	223	3,703	214	3,360	268	3,612	307	43,572		2,962	
夕食	3,859	5	3,947	0	3,936	0	3,568	9	3,902	15	46,369		49	
小計	11,286	265	11,533	223	11,572	214	10,496	284	11,418	339	136,544		3,058	
合計	11,551		11,756		11,786		10,780		11,757		139,602			

VIII 青葉ホーム

1 実施状況（弥生が丘Ⅰ・弥生が丘Ⅱ・弥生が丘Ⅲ）

- (1) 利用者個々に応じた生活支援、希望に応じた個別活動（外出・買物等）の実施。
- (2) 感染者が発生した場合は、ホーム内をゾーニングし、感染拡大防止に努めた。
- (3) 利用者の日中利用事業所との情報共有を図り連携に努めた。
- (4) 各ホームでの調理実習や余暇活動（季節行事等）を感染対策を行い実施した。
- (5) 環境整備として年2回、各ホームの除草作業等を実施した。

2 年齢

(名)

年齢	20未満	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65以上	合計	平均年齢
男	0	4	2	6	5	1	0	18	43 歳
女	0	3	5	5	2	0	0	15	38 歳

3 障害支援区分

(名)

場所 \ 区分	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
弥生が丘Ⅰ	1	0	1	2	6	0	0	10
弥生が丘Ⅱ	1	0	2	3	3	2	0	11
弥生が丘Ⅲ	0	0	1	4	5	2	0	12
合計	2	0	4	9	14	4	0	33

4 日中活動状況

(名)

種別 場所	生活介護	就労継続B型 就労移行支援	就労継続A型	一般就労	その他	合計
弥生が丘Ⅰ	0	7	2	1	0	10
弥生が丘Ⅱ	2	7	1	1	0	11
弥生が丘Ⅲ	2	6	2	2	0	12
合計	4	20	5	4	0	33

5 体験利用

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実利用者数	0	0	1	0	0	1	1	0	1	1	1	0	6名
延べ利用日数	0	0	2	0	0	24	3	0	30	9	3	0	71日

IX 地域社会との交流

1 特別支援学校等実習受入状況

本年度実績無し（新型コロナウイルス対策のため）

2 職場体験（田代中学校）

期 間	人 数
令和4年 9月 9日	3名

3 介護等実習の受入状況

（1）佐賀県社会福祉協議会介護等体験

期 間	人 数
令和4年 8月 8日 ～ 令和4年 8月12日	1名
令和4年 8月15日 ～ 令和4年 8月19日	1名
令和4年 8月22日 ～ 令和4年 8月26日	2名

（2）西九州大学

期 間	人 数
令和4年 8月16日 ～ 令和4年 9月14日	1名
令和4年 8月16日 ～ 令和4年 9月19日	1名

（3）九州医療福祉専門学校

期 間	人 数
令和4年 7月 1日 ～ 令和4年 9月14日	1名

- 4 ボランティア活動状況
本年度実績無し（新型コロナウイルス対策のため）

X 総務課

1 職員状況

令和4年3月31日現在（名）

	園長	サービス管理責任者	事務員	生活支援員	看護師	作業療法士	管理栄養士	調理師等	環境整備員	世話人	世話人（夜勤専従）	医師（嘱託）	合計
3年度	1	6 ※GH2	8	89	3	1	2 ※兼務1	13	1	11	17	1	153
4年度	1	6 ※GH2	8	91	3	1	1	13	1	9	12	1	147
増 減	0	0	0	+2	0	0	-1	0	0	-2	-5	0	-6

※契約職員・短時間勤務職員含む

2 職員研修

月	研 修 会 等 名 称	開催地	参 加 者
4	新採研修	園 内	時、柴田、坂井、杉谷、吉田 近藤、内田、馬見塚、松田
5	佐賀県相談支援従業者初任者研修	オンライン	長瀬
	1年経過者研修	法 人	白石、成瀬、下尾、齊藤、黒田 石丸、立石、後藤、
	救命救急研修（外部講習）	園 内	16名
6	サービス管理責任者基礎研修	オンライン	長瀬
	強度行動障がい支援者養成研修	オンライン	真島・柳・池田
	スキルアップ研修	園 内	深町、香月、米田、橋本
	リハビリ研修	園 内	23名
7	九州地区知的障害者関係職員研究大会	オンライン	別府
	介護用品取扱研修（外部講習）	園 内	11名
8	全国知的障害者関係施設等研修	オンライン	長尾
	全国グループホーム等研修会北海道大会	オンライン	長尾、片山
	福祉現場における改正個人情報保護法	オンライン	長尾、大石
	会計基礎知識研修	オンライン	荒牧
9	リハビリ研修	園 内	20名
10	働き方研修	法 人	柴田、坂井、杉谷、稲岡、時 馬見塚、吉田、近藤、松田

	園内事例研究発表会	園 内	33名
11	口腔ケア研修（外部講習）	園 内	20名
12	リスクマネージャー養成講座	オンライン	手島、古賀
	防犯研修（外部講習）	園 内	10名
2	知的障害者の認知症診断	オンライン	溝田、手島、山田、村上、深町、 島原、埋ノ江、松田、下尾、遠藤
	食と口腔衛生	オンライン	真崎、濱地、香月

3 視察等の受入

本年度実績無し（新型コロナウイルス対策のため）

4 防災・防犯管理

青葉園

- （１）定期的な防火避難訓練を実施（総合年１回、避難訓練２回、消火訓練１回）
- （２）外部講師（鳥栖警察署）に依頼し、外部侵入者に対する防犯訓練を実施した。

青葉ホーム

- （１）防火避難訓練を実施（各ホーム 年２回）
- （２）災害時の非常食訓練を実施

5 施設整備および環境の整備状況

（１）施設整備

- （青 葉 園）・外部デッキ滑り止め塗装工事（２F、３F）・脱衣所修繕（大地２）
- ・居室耐水石膏ボード張替（大地２）・電気錠操作盤（事務）
- （青葉ホーム）・空調機点検工事（弥生が丘Ⅲ）

（２）備品等の整備

- （青 葉 園）・パソコン（２台） ・エアーストレッチャー ・ほのぼのクラウド更新
- ・見守りシステム設置工事 ・業務用食器洗浄機（栄養課）
- （青葉ホーム）・エコキュート工事（弥生が丘Ⅰ）・ほのぼのクラウド更新

6 寄付・寄贈

ご 芳 名
青葉園・グリーンファーム山浦・青葉ホームの利用者を支える会「みつば」様
佐賀県共同募金会 様

7 苦情報告

No.	内 容	対 処	解決
1	令和3年3月に「こずかいの中身(詳細)が知りたい」と依頼されていたが、処理できておらず、再度依頼を受ける(入所)。	謝罪をし、今後は2ヶ月に1回月の請求書と共に郵送とする。	済・未
2	GWの外泊中止の件や担当職員変更の連絡が遅いと指摘を受ける(ホーム)。	報告事項がある場合は、速やかに電話連絡を入れる。	済・未
3	利用者同士のトラブルの件で、粗暴行為を受けた利用者の家族より、環境の改善を要望を受ける(入所)。	謝罪の連絡を入れ、両者落ち着いていることを伝え、本氏の意味も伝え様子を見る事になる。	済・未
4	21時以降にユニット内食堂で大きな声で職員が話されていると、利用者より苦情が上がる(入所)。	各ユニット職員へ夜間21時以降話がある場合はスタッフルーム内で話をするようにする。	済・未
5	通所、送迎に関して乗車位置の配慮や車の大きさを指摘される(通所)。	乗車位置を助手席に固定をさせてもらい対応、送迎車の変更を検討。	済・未
6	家族より、簡易検査コロナ陽性の対応に関して、病院受診し確定するまでは、隔離対応は許可することは出来ない、はっきりと診断をしてもらいたいとのことであった(入所)。	感染拡大を防ぐ為の対応を協力依頼であったが、説明不足もあり、受診をしないと思われていた。受診し、結果を伝え対応させてもらう。	済・未

8 虐待報告

No.	内 容	対 処	解決
1	令和5年3月12日3時頃夜勤職員1名が利用者1名への身体的虐待をおこなう。 ①座位状態の利用者左太もも付近を足で押しやる。 ②廊下より開かないように居室のドアを手で押さえる(身体拘束)。 (入所)。	園内では職員へ状況を説明し、注意喚起をおこなった。 再発防止のために、障害特性の理解や権利擁護に努め、虐待防止法の理解、身体拘束の適正化の指針の周知徹底をおこなう。また、職員のメンタルヘルスの強化や職場環境の改善も進めていくよう改善計画を策定し実施中。	済・未

どんぐり村

I 運営概要

令和4年度は、新型コロナウイルスの影響や物価高騰などの影響を受けながら運営を行った。特に福祉事業については、利用者の感染拡大や濃厚接触による休みなどで、利用率が下がる状況となってしまった。

そのなかで、地域の活動やイベント開催、団体の来場者などは少しずつ戻ってきたところもあり、観光事業については前年度の来場者数を維持することができた。また、佐賀市の緑化推進事業の花苗育成を継続して行い、地域とのつながりを深めていくことができた。

II 利用者の状況

1 年齢分布図 (名)

	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～以上	合計
男	1	5	4	8	4	4	1	6	4	37
女	0	0	4	6	2	0	1	0	4	17
計	1	5	8	14	6	4	2	6	8	54

※最年少者 19 歳 最年長者 71 歳 男性平均 39 歳 女性平均 40 歳 平均 39.5 歳

2 事業別利用契約者数

就労継続支援事業B型 54 名（男性 37 名、女性 17 名）

3 市町村別利用者数（受給者証発行市町村） (名)

	佐賀市	鳥栖市	神埼市	みやき町	小城市	多久市	白石町	吉野ヶ里町	合計
男	22	2	7	2	1	2	1	0	37
女	8	0	3	1	2	3	0	0	17
計	30	2	10	3	3	5	1	0	54

4 手帳の所有状況（療育・身体障害者・精神保健福祉手帳） (名)

	男	女	合計
療育手帳	33	19	52
身体障害者手帳	1	1	2
精神保健福祉手帳	2	0	2
合 計	36	20	56

III 事業の実施状況

1 就労継続支援事業B型（定員 40 名）

(1) サービス部門（物販、パン工房、体験工房、飲食サービス）

みつせ鶏のバーベキュー、食の体験工房を再開することができ、観光事業サービスの充実を図ることができた。これらのサービスを実施することにより、団体来場者数増加にもつながった。来場者向けのサービスが増えたことで、利用者が接客する機会も増え、就労意欲の向上を図ることができた。

(2) 牧場部門（農園芸、環境整備、動物飼育）

農園芸班については、佐賀市の緑化推進事業（花苗育成事業）を実施し、予定の9万本を納めることができた。花苗事業を継続して行っていることで、地域の方から個別に花苗やさつまいもの注文が入るようになってきた。

動物飼育については、新しい道産子（メス・4歳）を導入し飼育することができ、利用者や来場者の人気者になった。

(3) 福祉部門（企画作業・アート活動班）

利用者の手作りによる装飾品や絵画などを活用して、来場者が楽しい気持ちになるような園内入口の雰囲気づくりを行い、制作者である利用者の働き甲斐につながるような取組を行った。アート活動についてもTシャツ展の定期的な開催や他事業所との協働イベント実施などを通して、地域交流活動を行うことができた。

(4) 行事の開催

新型コロナウイルス感染防止対策のため利用者旅行や保護者との懇親会については中止し、利用者・職員の園内レクリエーションや食事会を実施し、利用者の働く意欲向上、余暇活動の充実に努めた。

2 就労支援部門実績

(1) 入場者数実績

(名)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
7,672	16,437	3,536	3,863	5,657	9,486	14,630
11月	12月	1月	2月	3月	合 計	
8,938	1,871	3,008	3,763	5,999	84,860	

(2) 売上実績

(千円)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
9,793	21,025	5,798	5,420	8,650	10,869	19,233
11月	12月	1月	2月	3月	合 計	
10,862	4,070	4,588	5,277	10,189	115,774	

3 工賃支給実績

就労継続支援B型					
月	支給人数（人）	支給額（円）	月	支給人数（人）	支給額（円）
4	54	1,479,400	10	52	1,542,350
5	53	1,529,900	11	52	1,428,400
6	53	1,515,950	12	50	1,431,800
7	51	1,486,100	1	51	1,397,250
8	52	1,450,300	2	52	1,345,000
9	52	1,272,300	3	50	1,523,250
合計支給人数（人）		622	合計支給額（円）		17,402,000

※就労継続B型支援事業 平均工賃 27,977 円

VI 地域社会との交流

1 実習

特別支援学校、地元中学校、公民館などの就業体験、施設見学受け入れを行ない、人間形成の一翼を担う社会資源としての役割を果たした。

（1）特別支援学校職場体験実習

期	間	作業部門	人 数
福岡市立生の松原特別支援学校（高等部）	令和4年5月26日	職場見学	41名
佐賀県立大和特別支援学校（高等部）	令和4年6月6日～17日	農園	2名
佐賀県立大和特別支援学校（中学部）	令和4年9月26日	職場見学/体験	30名
福岡市立生の松原特別支援学校（高等部）	令和4年9月29日	職場見学	47名
佐賀県立うれしの特別支援学校（高等部）	令和4年10月21日	職場見学	27名
佐賀県立大和特別支援学校（高等部）	令和4年10月31日～11月18日	農園・パン	2名
福岡市立生の松原特別支援学校（高等部）	令和4年11月17日	職場見学	60名
佐賀県立大和特別支援学校（中学部）	令和4年11月21日～11月22日	動物	2名

（2）その他

期	間	作業部門	人 数
佐賀県立高志館高校（地域学校協働活動）	令和4年5月～11月の5回	動物	9名
多久市特別支援教育研究会	令和4年7月29日	施設見学	33名
佐賀市立松梅中学校	令和4年8月2日～4日	花苗・農園	3名
佐賀県立高志館高校	令和4年9月13日～15日	動物	4名
佐賀市立兵庫公民館	令和4年11月23日	動物	3名
福岡市東花畑校区社会福祉協議会	令和4年11月24日	施設見学	20名
佐賀県教育支援センター しいの木	令和4年11月25日	動物/パン	4名
佐賀県立唐津南高校	令和4年12月7日～9日	動物	1名
佐賀市立松梅中学校	令和5年3月13日	交流会	11名

2 地域交流

地域交流のイベント等は、新型コロナウイルス感染対策を取りながら少しずつ開催されるようになった。どんぐり村内での開催をはじめ、地域でのイベントに参加し、地域との交流を図った。また、花苗事業を通して、三瀬村との協働を積極的に行った。

期 間	場 所
佐賀市公共施設花苗事業（前期） 5月15日～ 6月30日	佐賀市内公共施設等
第1区三瀬公民館花壇花植え作業 6月 9日	第1区三瀬公民館
三瀬高原キャンペーン 7月16日～12月31日	三瀬村・どんぐり村
三瀬田舎と都市のふれあい祭り 10月22日～10月23日	三瀬小中学校グラウンド
三瀬ポップジャム 10月22日～10月23日	三瀬小中学校グラウンド
佐賀市公共施設花苗事業（後期） 10月15日～11月30日	佐賀市内公共施設等
第4回さが☆ふれあいがんばろう祭 11月14日～11月18日	佐賀県庁
三瀬中央公民館花壇花植え作業 11月25日	三瀬中央公民館
第1区三瀬公民館花壇花植え作業 12月 1日	第1区三瀬公民館
どんぐり村ほんげんぎょう 1月 9日	どんぐり村運動広場
三瀬中央公民館花壇花植え作業 3月27日	三瀬中央公民館
第1区三瀬公民館花壇花植え作業 3月28日	第1区三瀬公民館

V 総務

1 職員状況

(名)

	管理者	サービス管理責任者	生活支援員	目標工賃達成指導員	職業指導員	事務員	販売員・環境整備員	合計
3年度	1	1	1	1	21	1	6	32
4年度	1	1	2	1	15	1	12	33

2 職員研修

研修名	場所	期日	参加者
職員研修会（新採職員）	若楠療育園	4月1日2日	岩本 岡本
職員研修会（新役付き職員勉強会）	若楠療育園	4月 8日	小笹 園田
職員研修会（一年経過者研修）	グリーンファーム山浦	4月22日	竹原 西久保
職員研修会（スキルアップ研修）	若楠療育園	6月17日	宮村 岡部
観光産業と地域活性化に関するセミナー	佐賀市文化会館	7月 6日	木村
出産・育児・介護休暇講習会	アバンセ佐賀	11月 7日	森本
佐賀県障害者虐待防止・権利擁護研修	グランデはがくれ	11月 8日	貞包
園内研修（ハラスメント研修）	どんぐり村	3月20日	職員全員

3 防災・安全管理

食品や動物に関わる作業、山間地での作業など衛生管理、安全管理を徹底して行う必要がある部門が多いため、法令遵守を徹底して管理に努めた。特に、利用者の怪我、車両事故については、職員の意識向上を図りながら、大きな事故につながらないように努めた。

4 施設整備及び環境の整備状況

- ・ レストラン厨房エアコン修理工事
- ・ ドアタイプ式食器洗浄機設置工事
- ・ 雲の池泥撤去作業工事
- ・ 道産子（4歳馬）導入
- ・ ノートパソコン導入（1台）

5 苦情報告

No.	内 容	対 処	解決
1	な し		済・未

6 虐待報告

No.	内 容	対 処	解決
1	な し		済・未

グリーンファーム山浦

I 運営の概要

若楠の基本理念「入園者中心主義」「開かれた施設」「若楠ファミリー」を念頭に、利用者一人ひとりの意向や特性に基づき、安心・安全で楽しく活動できる環境づくりに努め、一般就労に必要な社会性の習得や作業訓練及び生産活動を行う場所を提供することができた。

新型コロナウイルス感染対策も全国的に緩和傾向の中で、地域交流や園内行事も、感染状況を慎重に見極めながら検討を重ね、「梅まつり」や新規イベント「味噌フェス」も開催できた。また、近隣の耕作放棄地を活用した米作りや、災害資機材ストックヤード設置への協力など地域貢献活動を推進できた。

昨年度、青葉園より青葉ホーム山浦を事業移管し、生活面を含めた利用者ニーズに幅広く対応できる体制づくりに努めてきた。また、地域資源としての役割を担い、関係機関と連携しながら、福祉サービスの受入れが難しいケースにも柔軟に対応できた。

1 活動の状況

明るく楽しい職場づくりを念頭に、個々の能力を発揮し意欲的に取り組めるよう支援を行いながら、事業本来の目的である就労支援の充実及び工賃向上を目指した。

- (1) 部署間で協力体制を整え調整を図りながら、法人内や外部受託作業を積極的に取り組み就労支援事業収入の安定に努めた。新型コロナウイルス感染拡大で制限してきた外部イベントへの参加や販売も徐々に再開した。
- (2) 各関係機関（行政・教育・医療・相談等）との情報共有や連携を密に行い、生活面を含めて利用者が安心して取り組めるよう手厚い就労支援を行った。
- (3) もしもネットと定期的に連絡会議を行うなど連携を更に深め、就労移行から定着まで特色ある支援体制の充実を図り、一般就労や新規利用獲得にも繋がった。
- (4) 保護者への報・連・相を丁寧に行い、必要に応じて面談の機会を設け、要望や課題解決に向けた迅速な対応を行うことで信頼関係の構築に努めた。
- (5) 定期的に給食会議を開催し、オリジナルメニューやイベント給食の企画、厨房環境の整備を行った。また、自家製の食材も積極的に取り入れ、利用者満足度の向上に繋げることができた。
- (6) 園内研修では外部からも参加して頂き、就労移行や障害特性をテーマに全体で認識を深めることができた。また、毎日のカンファレンスで虐待及び事故防止についても協議を重ね、職員の意識向上に繋がった。
- (7) 新型コロナウイルス感染状況や全国的な施策を見極めながら、利用者及び職員の健康状態や生活状況の把握に努め、園内感染予防対策を柔軟に実施した。
- (8) 青葉ホーム山浦を移管し、利用者と職員の関係性を構築しながら、地域移行を念頭に利用者ニーズに沿った生活支援を行い、利用者の一人暮らしにも繋げることができた。

2 就労継続支援B型事業

各部署間での調整及び連携を深めながら効率化を図り、新規事業やの外部受託業務にも柔軟に対応し、利用者が取り組める作業の幅を更に広げることができた。

新型コロナウイルス感染拡大の影響による原材料費の高騰が続いており、商品の価格改正や業務内容の見直しを行い、安心・安全を念頭に置いた品質の更なる向上及び地域ニーズに即したサービスの展開を図り、売上増及び工賃向上に取り組んだ。

3 就労移行支援事業

外部清掃作業を中心に、一般就労に必要な基礎訓練（報連相・ピッキング・社会マナー等）を行い、利用者の作業能技能及び社会性の向上を図った。もしもしネットとの連絡会議も定期的に開催し、外部事業所を招いての意見交換会や研修を企画、職員の技能向上や支援内容の充実に努めた。さらに、ハローワークとも連携し、企業実習や見学、求職活動を通して、利用者の一般就労に繋げることができた。

就労移行アセスメントは依然、利用希望が多く、特別支援学校や関係機関と連携しながら、職員間でも役割分担と体制を整えつつ計画的に実施した。

4 就労定着支援事業

事業開始から5年目に入り、各企業との連携及び関係性も深まっている。また、利用者の就労及び生活の安心・安定を念頭に、もしもしネットとも連携しながら課題解決に向けて迅速に対応し、本人及びご家族にサービスの有効性を、更に感じて頂けるよう努めた。

5 共同生活援助

新体制に際し、利用者・保護者・職員との信頼関係向上に努め、関連機関との情報共有を深めながら、利用者が安心して快適に暮らせる体制を整えた。

利用者個々の意向や状況に応じて、地域共生社会の一員としての自覚を身に付けるよう支援を行った。また、新型コロナウイルス感染予防対策など、利用者の危機管理に対する意識向上も図った。

II 利用者の状況

1 年齢別性別の状況

(1) 就労継続支援B型

(人)

年齢 性別	20歳 未満	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 64	65歳 以上	計	平均年齢
男 性	0	9	9	15	7	1	4	45	43歳04ヶ月
女 性	0	1	5	6	5	1	0	18	44歳02ヶ月
合 計	0	10	14	21	12	2	4	63	43歳07ヶ月

(2) 就労移行支援

(人)

年齢 性別	20 歳 未満	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 64	65 歳 以上	計	平均年齢
男 性	1	5	0	0	0	0	0	6	22 歳 10 ヶ月
女 性	0	0	0	1	0	0	0	1	44 歳 10 ヶ月
合 計	1	5	0	1	0	0	0	7	26 歳 0 ヶ月

(3) 就労定着支援

(人)

年齢 性別	20 歳 未満	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 64	65 歳 以上	計	平均年齢
男 性	0	1	1	0	1	0	0	3	37 歳 07 ヶ月
女 性	0	0	0	0	0	0	0	0	
合 計	0	1	1	0	1	0	0	3	41 歳 09 ヶ月

(4) 共同生活援助

(人)

年齢 性別	20 歳 未満	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 64	65 歳 以上	計	平均年齢
男 性	0	0	2	2	3	0	0	7	48 歳 06 ヶ月
女 性	0	0	0	1	0	1	0	2	54 歳 07 ヶ月
合 計	0	0	2	3	3	1	0	9	49 歳 10 ヶ月

2 障害別性別の状況

(1) 就労継続支援B型

(人)

種別 性別	療育手帳 A	療育手帳 B	精神障害者 保健福祉 手帳 2 級	精神障害者 保健福祉 手帳 3 級	身体障害者 手帳	計
男 性	13	31	1	0	0	45
女 性	2	14	2	0	0	18
合 計	15	45	3	0	0	63

(2) 就労移行支援

(人)

種別 性別	療育手帳 A	療育手帳 B	精神障害者 保健福祉 手帳 2 級	精神障害者 保健福祉 手帳 3 級	身体障害者 手帳	計
男 性	0	3	0	2	0	5
女 性	0	1	0	0	0	1
合 計	0	4	0	2	0	6

(3) 就労定着支援

(人)

種別 性別	療育手帳 A	療育手帳 B	精神保健福 祉手帳 2 級	精神保健福 祉手帳 3 級	身体障害者 手帳	計
男 性	0	2	0	0	0	2
女 性	0	0	0	0	0	0
合 計	0	2	0	0	0	2

(4) 共同生活援助

(人)

種別 性別	療育手帳 A	療育手帳 B	精神保健福 祉手帳 2 級	精神保健福 祉手帳 3 級	身体障害者 手帳	計
男 性	0	7	0	0	0	7
女 性	0	2	0	0	0	2
合 計	0	9	0	0	0	9

3 その他（青葉ホーム山浦）

(1) 日中活動の状況

(人)

種 別	生活介護	就労 A 型	就労 B 型	一般就労	その他	計
人 数	0	2	5	2	0	9

(2) 短期入所の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2 名
延べ利用日数	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	4 日

Ⅲ 就労支援事業の実施状況

1 農園芸班（作業科目）花苗栽培・花壇管理・鶏卵・野菜栽培・果樹栽培

行政やどんぐり村など年間受託契約を中心に幅広く事業を行い、近隣事業所からの一時受託業務も増加した。また、地域の要望に応えながら耕作放棄地を活用した米作りにも新規に取り組み、利用者の作業の幅も広がった。また新型コロナウイルス感染拡大による活動の制限も徐々に緩和され、行政や各地区の公民館、市民活動ネットワーク等とも調整しながら、ガーデニング教室や花壇植栽を行い、地域交流を積極的に取り組んだ。

鶏卵事業では飼育環境を整備し、業務の効率化を目指しながら鮮度管理を徹底し、各方面の顧客に対して供給の安定化と満足度の向上に努めた。

2 菌床椎茸・業務受託班（作業科目）菌床椎茸栽培・児童発達センター清掃他

菌床椎茸部門では、管理業務の整備を図りながら、繁忙期は各作業班との協力体制で取り組んだ。

業務受託部門では、児童発達センターや外部清掃作業に、利用者が交替で取り組み、挨拶や社会マナーの修得及び就労に対する意識向上を目指した。法人内公用車の洗車業務も新規契約で幅が広がり、全体で業務の日程調整を図った。また、軽作業として、古紙を使った紙バッグ製作も取り入れ、販促物の充実と作業の幅を広げることができた。

3 食品加工班 （作業科目） 味噌・菓子製造販売

味噌部門では、原材料費の高騰に伴い全体的に価格改正を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響が収まり、各方面の受注量も安定してきた。直売店や小売りも順調で、菓子部門でも地域企業を中心に受注が増え、増産体制を整えながら柔軟に対応することができた。また工場敷地内で、味噌のイベントを開催し、地域への周知や交流を図った。

4 クリーニング班 （作業科目） 法人各施設・官公庁・企業他一般向け リネンや制服等

法人内受託業務の価格改正を行い、原材料や燃料光熱費の高騰を踏まえて、業務内容全体の費用対効果を精査し効率化を図った。その中で、外部受託業務を見直し、コカ・コーラ鳥栖工場との契約を終了した。

5 主な年間契約先

作 業 班	主な作業内容	納品・作業場所	委 託 先
園 芸 班	米作り	山浦町（施設横）	私有地
	花壇管理（年間）	八ツ並公園他7ヶ所	鳥栖市
	花壇管理（年間）	どんぐり村園内	どんぐり村
	花壇管理（年間）	環境課へ納品（200 ケース）	吉野ヶ里町
	花壇管理	フレスポ鳥栖アーケード横	まちスポ鳥栖
	環境整備	敷地内除草	産業総合研究所
	環境整備	敷地内除草・植替え	浄福寺
	環境整備	敷地内花壇・駐車場除草	若楠療育園
	環境整備	敷地内花壇・除草作業	若木園
	環境整備	敷地内	朝日山学園
	花壇管理	鳥栖北公民館植栽	鳥栖市
椎茸業務班	清 掃	児童発達支援センター	若楠療育園
	農地管理	原古賀町	私有地
	洗 車	若楠療育園公用車（月2）	若楠療育園
	洗 車	もしもしネット公用車（月2）	もしもしネット
就労移行班	清 掃	中央公園他15ヶ所	鳥栖市
農産加工班	味噌納品	鳥栖市学校給食センター	鳥栖市
	味噌納品	基山町学校給食センター	川崎屋
	味噌納品	特別支援学校2ヶ所	福岡県

	味噌納品	特別支援学校 2 ヶ所	佐賀県
	味噌納品	施設内厨房	松尾山大成園
	味噌納品	ロザリオの園	聖母の騎士会
クリーニング班	制服・リネン	療育園・センター	若楠療育園
	制服・リネン	若木園	若木園
	職員制服	児童発達支援センター	若楠療育園
	作業着	コカ・コーラ鳥栖工場	コカ・コーラ

6 作業班別売上実績

作 業 班	売 上 額
園 芸	23,981,477 円
加 工	7,430,182 円
クリーニング	24,697,698 円
業務受託 菌床椎茸	5,064,467 円
業務受託 就労移行	5,222,725 円
共通	874,698 円
合 計	67,271,247 円

7 工賃支給実績

就労移行支援			就労継続支援 B 型		
月	支給人数 (人)	支給額 (円)	月	支給人数 (人)	支給額 (円)
4	9	241,132	4	54	990,455
5	9	249,534	5	56	1,112,979
6	8	419,784	6	57	2,167,532
7	8	174,217	7	55	846,326
8	8	218,967	8	53	804,006
9	8	187,421	9	54	1,125,135
10	7	204,740	10	56	1,260,702
11	7	371,051	11	57	2,358,443
12	7	166,701	12	57	1,108,862
1	7	173,868	1	58	1,061,252
2	6	149,583	2	61	1,186,670
3	6	428,177	3	61	3,178,639
合計	90	2,985,175	合計	679	17,201,001

就 労 移 行 支 援 事 業	平均工賃	33,169 円
就 労 継 続 支 援 B 型 事 業	平均工賃	25,333 円
合 計 平 均 工 賃		26,250 円

8 利用者の就職状況（就労移行支援）

利 用 者	就 職 先	就労定着支援（6 ヶ月後）
男性 1 名	旭食品九州中央支店	利用

IV 地域社会との交流

1 就労移行アセスメント

利 用 者	市 町 村	期 間
18 歳・男性	鳥栖市	7 月 19 日～7 月 21 日（3 日間）
18 歳・男性	鳥栖市	7 月 25 日～7 月 26 日（2 日間）
18 歳・男性	みやき町	8 月 1 日～8 月 2 日（2 日間）
18 歳・男性	吉野ケ里町	9 月 26 日～9 月 28 日（3 日間）
18 歳・男性	鳥栖市	10 月 3 日～10 月 5 日（3 日間）
18 歳・女性	鳥栖市	10 月 17 日～10 月 19 日（3 日間）
18 歳・男性	上峰町	10 月 26 日～10 月 28 日（3 日間）
18 歳・男性	吉野ケ里町	11 月 16 日～11 月 17 日（2 日間）
18 歳・女性	上峰町	2 月 1 日～2 月 3 日（3 日間）
18 歳・男性	みやき町	3 月 1 日～3 月 3 日（3 日間）
18 歳・女性	基山町	3 月 27 日～3 月 28 日（2 日間）
18 歳・男性	吉野ケ里町	3 月 29 日～3 月 30 日（2 日間）

2 実習生

学 校 名	期 間	実 習 生
中原特別支援学校	6 月 13 日～6 月 24 日	高等部 2 年生 男性 1 名・女性 1 名
九千部学園	8 月 29 日～9 月 9 日	16 歳・女性 1 名
中原特別支援学校	11 月 14 日～11 月 25 日	高等部 2 年生・男子 2 名

3 ボランティア

名 称	主な活動内容	人 数
販売ボランティア	梅まつり	1 名
販売ボランティア	味噌フェス	1 名

4 地域貢献及び交流活動

- (1) ほんげんぎょう (1/7)
- (2) 梅まつり (2/26)
- (3) 味噌フェス (3/21 農産加工場)
- (4) ふもと体験教室 (全 3 回)
- (5) 山浦子どもクラブ体験 (11/19)
- (6) 花とみどりの祭り (11/20 花苗配布)
- (7) グリーン教室 (各地区まちづくり推進センター・近隣小中学校 等)
- (8) フレスポグリーンファーム (市民活動ネットワーク連携、フレスポ歩道花壇管理)
- (9) 災害ストックヤード (2/8 佐賀県社会福祉協議会設置)

5 見学者

機関・団体名	期 日	人 数
パレット (クリーニング棟視察)	4 月 19 日	3 名
九州国際高等学園 (施設見学)	4 月 21 日	2 名

V 総 務

1 職員状況

職 種	管理者	サービス管理責任者	就労移行			就労継続 B 型			定着支援員	共同生活援助			事務員	調理員	送迎	合 計
			生活支援員	職業指導員	就労支援員	生活支援員	職業指導員	目標工賃達成指導員		生活支援員	世話人	世話人（夜間専従）				
3 年 度末	1	1	1	※3	1	1	10 ※10	1	※1	0	0	0	1 ※1	※4	※3	17 ※22
4 年 度末	1	2	1	※3	1	1	9 ※12	1	※1	1	※2	※5	1 ※1	※3	※3	18 ※30

※は短時間職員

2 職員研修

(1) 園内研修

研 修 名	場 所	期 日	参加職員
就労ミーティング	多目的ホール	隔月 (年 6 回)	もしもしネット 移行・定着職員
就労移行支援 意見交換会 障害者自立訓練サポートセンター わーよか	多目的ホール	10 月 7 日	もしもしネット 移行・定着職員
ピアサポート研修	多目的ホール	3 月 10 日	就労移行利用者 もしもしネット 移行・定着職員
「精神・発達障害の特性に 応じた支援や対応の仕方」 佐賀障害者職業センター 職業カウンセラー 猪原 大介 氏	多目的ホール	3 月 17 日	もしもしネット 全職員

(2) 外部研修

研 修 名	場 所	期 日	参加職員
鳥栖・三養基地区就労支援部会 虐待防止及び身体拘束適正化研修	鳥栖市役所	5 月 11 日	鈴木 一也 ※全体周知
佐賀県発達障害支援 サポーター養成等研修	オンライン	6 月 20 日	井上 志麻 中尾 真弓
全国社会就労センター 総合研究大会（長野大会）	オンライン	7 月 22 日	松尾 太敬 中村 裕之
鳥栖・三養基地区就労支援部会 ① 報酬改定及び加算取得の概要 ② 企業が求める人材について	鳥栖市役所	8 月 10 日	鈴木 一也
佐賀県地域生活定着支援センター 普及・啓発セミナー	オンライン	10 月 27 日	鈴木 一也
鳥栖・三養基地区就労支援部会 ① 農福連携について ② サービス等利用計画との連動 (個別支援計画の作成について)	鳥栖市役所	11 月 9 日	鈴木 一也
さがを深く知る大交流会	佐賀市文化会館	11 月 20 日	田口 揚児
食品衛生責任者講習	鳥栖市文化会館	12 月 2 日	渡辺 健 清水 渚
安全運転管理者講習	鳥栖市文化会館	12 月 7 日	松尾 太敬
全国生産活動・就労支援部会研修会 北陸地区大会 in メタバース	オンライン	1 月 26 日 1 月 27 日	松尾 太敬 田口 揚児
甲種防火管理者新規講習	佐賀市文化会館	2 月 17 日	中村 裕之
地域包括ケアシステム研修会	オンライン	3 月 13 日	鈴木 一也

3 防災管理

青葉ホーム山浦事業移管に伴い、防火管理者を新たに設置し、消防署への申請及び年間消防設備点検の更新を行った。防災計画をもとに防災訓練を実施し、6 月にはグリーンファーム山浦と青葉ホーム山浦合同での緊急連絡網を使った伝達訓練、10 月にはグリーンファーム山浦、11 月には青葉ホーム山浦で、それぞれ火災避難誘導訓練を行った。

また、施設内消防設備の確認を行い、消火器の入替え及び避難誘導灯の整備を行った。

4 施設設備及び環境の整備状況

- ・エアドライヤー（クリーニング班）
- ・ハイゼットトラック（農園芸班）

5 寄付

ご 芳 名
・みつばの会 様 ・佐賀県共同募金会 様 ・(株) トヨタレンタリース 様

6 苦情報告

No.	内 容	対 応	解 決
1	青葉ホーム弥生が丘所属の女性利用者より、日中、児童発達センターでの作業中に職員から衣服を掴まれ、不安や不快な思いをしたとの訴えがあった。	当該職員と共に、本人への謝罪を行った。また、電話による家族へ報告と謝罪を行った。 施設内の虐待防止委員会及び苦情解決委員会での協議を行い、職員から利用者、特に異性への接触に対する配慮の徹底を確認し、全体への周知を行った。 その後、当該職員と女性利用者本人の関係性は良好に経過している。	済・未
2	利用者の保護者より、職員の言動に対して利用者本人から不安や不満の訴えがあった旨、連絡を受ける。	課長と本人で面談を行い、事情の聞き取りを行った。その後、保護者へ電話による、状況報告と謝罪を行う。また利用者本人に対しても、課長立会いのもと当該職員より謝罪し、了承して頂いている。 施設内でも対応を協議し、利用者本人と担当職員による相談体制の確認を行った。その上で、後日利用者本人及び保護者と施設内での面談を設け、本人に対する相談及び見守り体制の徹底をお伝えした。その後も、利用者本人の経過観察及び保護者への連絡を継続しながら、関係性の再構築に努め、特に問題の再発は見られない。	済・未
3	山浦前区長より、施設で行った、ご本人所有林からの竹切出しにつ	即日、担当職員が前区長と現地で確認を行い謝罪した。その後、上	済・未

	いて、後始末が不十分との苦情を受けた。	司へ報告、施設長からも先方へ謝罪を行った。 前区長と打合せの上、日程調整を行い、担当部署で現地を整備。先方へ作業終了の連絡を行う。 後日、前区長より現地を確認された旨連絡を受ける。今後、事前事後の連絡と、丁寧な対応を約束し納得して頂いた。	
--	---------------------	--	--

7 虐待報告

No.	内 容	対 応	解 決
1	な し		済・未

もしもしネット

I 障害者就業・生活支援センター事業の実施

安定した職業生活や自立を目的として、就業及びこれに伴う日常生活、または社会生活上の支援を必要とする障害者に対して関係機関と連携し、障害者及び事業主等に必要な助言や支援を行い、雇用の促進及び職業生活の安定を図った。

1 令和4年度障害者就業・生活支援センター事業実施状況

(1) 障害種別・就業状況別の支援対象障害者（登録者）数 (名)

	身体障害		知的障害		精神障害	その他	合計
		うち重度		うち重度			
在職中	21	4	152	24	95	12	280
求職中	16	3	34	4	47	11	108
その他	0	0	7	0	0	3	10
合計	37	7	193	28	142	26	398
R3 年度	42	7	205	32	163	14	424

(2) 支援対象障害者に対する相談・支援件数（手段別） (件)

	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
センターへの来所（本人・ほか家族等含む）	24	112	74	10	220
電話・メール相談（本人・家族のほか関係機関等の電話も含む）	161	1, 223	628	85	2, 097
職場訪問（定着支援ほか、職場実習支援含む）	73	797	280	57	1, 207
家庭・入所施設への訪問	13	56	19	5	93
その他（ハローワーク同行訪問、各種手続き、病院受診同行、ケース会議他）	48	131	152	22	353
合 計	319	2, 319	1, 153	179	3, 970
R3 年度	304	2, 440	1, 554	69	4, 367

(3) 事業所に対する相談・支援割合（内容別） (件)

雇入れに関する相談・支援	222
雇用する障害者の職場適応・職場実習に関する相談・支援	1,284
雇用する障害者の生活面に関する相談・支援	266
障害者の雇用支援制度に関する相談・支援	0
その他	35
合 計	1,790
R3 年度	1,980

(4) 職場実習のあっせん件数 (件)

	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
R4	3	13	6	10	32
R3	1	17	10	1	29

(5) 就職件数及び就労支援継続A型事業所への就職件数

<一般就労>

(件)

	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
R4	8	19	22	8	57
R3	4	31	27	1	63

<就労継続支援A型>

(件)

	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
R4	0	3	4	0	7
R3	2	6	12	0	20

(6) 職場定着率・・・1年経過時点 (%)

	身体障害	知的障害	精神障害	その他	平均
R4	50	71	70.4	100	69.8
R3	50	80.8	70.6	100	75.5

II 研修等の受講

- 1 鳥栖工業高校 職員研修（講師） 6/2 (於：鳥栖工業高校 小川)
- 2 明治安田こころの財団 発達講座「現代の思春期青年期を考える」 7/2
(於：Web 開催 小川)
- 3 全国就労支援ネットワーク 全国フォーラム 7/9 (於：Web 開催 小川)
- 4 中原特別支援学校 連絡会議校内研修（講師） 7/14
(於：中原特別支援学校 小川)
- 5 中原特別支援学校 保護者進路研修会（講師） 8/10 (於：中原特別支援学校 小川)

- 6 日通パナソニックロジスティクス研修会（講師）10/8 （於：日通パナソニック 小川）
- 7 高・障支援機構 生活相談員認定講習（講師）10/24 （於：ポリテクセンター 小川）
- 8 ナカボツ 九州ブロック経験交流会 11/1 （於：Web 開催 杉原）
- 9 高・障支援機構 就業支援実践研修（発達）11/10 （於：ポリテクセンター 田脇）
- 10 高・障支援機構 就業支援実践研修（精神）11/22 （於：福岡自治会館 杉原）
- 11 高・障支援機構 発達障害者就労支援者研修 12/1（於：ポリテクセンター 岡・田脇）
- 12 （公社）日本知的障害者福祉協会相談支援・就業支援セミナー12/10
（於：Web 開催 杉原）
- 13 ヤングケアラー研修 基礎コース 12/10 （於：Web 開催 田脇）
- 14 大分労働局 第10回 障害者就労セミナー 12/16 （於：Web 開催 杉原・田脇）
- 15 全国就業支援ネットワーク ナカボツ全国フォーラム 12/10-11
（於：Web 開催 小川・田脇）
- 16 全国就業ネットワーク「定着支援地域連携モデルに係る調査」事業報告セミナー
2/24（於：Web 開催 小川・杉原・田脇）
- 17 九千部学園 就業研修会（講師）3/2 （於：九千部学園 小川）
- 18 全国就業支援ネットワーク「就労選択支援、障害者ビジネス」に係るセミナー 3/17
（於：Web 開催 小川）

【もしもしネット・グリーンファーム山浦就労移行 合同勉強会】

・6/10 8/5 10/7 12/10 2/10・3/10 （全6回）

参加者：B型・就労移行職員 もしもしネット （各回 約16名）

内容：各回テーマを設定しケース検討、個別支援計画作成等の実務研修、

ピアサポート研修 他機関講師による就労支援研修ほか

（於：グリーンファーム山浦多目的室）

Ⅲ その他

1 関係機関との連絡会議の開催

令和5年3月17日 グリーンファーム山浦 多目的室

参加機関：総合相談窓口 計画支援事業所 移行支援事業所

就労継続支援B型事業所 （計15名）

講 義：「精神障害・発達障害の支援について」

佐賀障害者職業センター 職業カウンセラー 猪原 大介氏

一般就労場面における発達障害の支援・特性理解、

事例を用いたのグループワーク

2 在職者交流会の実施

円滑な就業生活と職場定着を目的とし余暇活動の一環とした交流会の開催（年4回）

- ・職場での人間関係、リラクゼーション方法、自立に向けての調理実習等
- ・6月、9月、12月、3月での計画を立てていたがコロナウイルスの影響により人数制限、感染対策を講じ屋外で2回の開催になる。

○令和4年7月16日

「社会人としてのマナー、ふるまいについて」（於：どんぐり村 多目的室）
主に新卒の社会人に向けて、マナーやふるまいについて
先輩からのアドバイス 講話など （計 15名）

○令和4年11月26日

「困った場面での対応、苦手な人との付き合い方」（於：山浦公民館）
人間関係やマナーについての講話。「苦手な人」との関りについて
グループワーク など （計 20名）

3 苦情報告

No.	内 容	対 処	解決
1	な し		済・未

4 虐待報告

No.	内 容	対 処	解決
1	な し		済・未

IV 総括

令和4年度は昨年度に比べて普通大学、高校等、若年者における発達障害者の対応や相談が増加し、教育分野、ハローワーク、職業センター、事業所等連携をしながらケースごとに時間を要しコーディネートをする必要が多くあった。発達障害への理解や関心も年々広まる様子があり、支援学校の教員、保護者のみならず、普通学校の教員や事業所の管理職向けの研修等、支援の周知や理解促進を目的とした機会も数多くあった。また、高次脳機能障害や精神障害（適応障害・パニック障害ほか）様々な様態やニーズ等が年々増えており、ひとつとして同じケースや対応では無いため、スキル習得の必要が急務である一方で職員のメンタルや負担の増加など今後も業務にあたり課題と工夫等が必要であると感じている。地域の関係機関や法人内での部署（総合相談室、グループホーム、グリーンファーム山浦移行支援事業所等）とも連携を図り、委託事業として責任をもって業務を遂行することで地域の信頼や貢献に繋げていきたい。